一般財団法人 ライフ・プランニング・センター

年 報
2018

平成30年度
(2018.4～2019.3)
事業報告書

8
(通巻46)

目　次（2018年度年報）

目次

はしがき …… **道　場　信　孝** … 1

ライフ・プランニング・センターのあゆみ …… 2

健康教育活動 …… 7
1 ▌財団設立の集い「日野原重明先生記念会」・7
2 ▌セミナー・講演・7
3 ▌厚生労働省後援研修・9
4 ▌調査・研究協力について・11
5 ▌出版広報活動・11

「新老人運動」と「新老人の会」の運営 …… 12
1 ▌地方支部・13
2 ▌「世話人会」の開催・13
3 ▌「拡大世話人会」の開催・13
4 ▌地方支部の運営と活動・14
5 ▌海外支部・17
6 ▌海外連絡団体・17
7 ▌スマート・シニア・アソシエーション（SSA）の活動・17
8 ▌本部の活動・17
9 ▌第11回「新老人の会」ジャンボリー鹿児島大会・19

ヘルスボランティアの育成と活動 …… 20
1 ▌SP ボランティア・20
2 ▌SP（模擬患者ボランティア）研修・21

カウンセリング―臨床心理・ファミリー相談室 …… 22
1 ▌聖路加レジデンス入居者を対象としたカウンセリング・22
2 ▌企業におけるメンタルヘルス対策への取り組み・22
3 ▌その他日本カウンセリング学会での活動・22

教育的健康管理の実践（日野原記念クリニック） …… 23
1 ▌クリニックの目指すもの・23
2 ▌診療体制の現状と将来方針・23
3 ▌診療の概要・24
4 ▌各種検査数の推移・26
5 ▌婦人科健診（子宮頸部がん細胞診〈PAP 検査〉，子宮体部がん細胞診）・26
6 ▌総合健診（人間ドック）・26
7 ▌集団の健康管理・27
8 ▌健康管理担当者セミナー・28
9 ▌クリニックにおける総合健診（人間ドック）の特徴と看護師の役割・29
10 ▌情報管理・30
11 ▌食事栄養相談・31
12 ▌学会等参加活動・32

日野原記念ピースハウス病院 …… 33
1 ▌診療活動・33
2 ▌看護部の活動・33
3 ▌ボランティア活動・35

ピースハウスホスピス教育研究所 …… 37
1 ▌活動の全体像・37
2 ▌活動の実際・39
3 ▌学会等参加活動・41
4 ▌「日本ホスピス緩和ケア協会」事務局として・41

訪問看護ステーション中井 …… 42
1 ▌訪問看護について・42
2 ▌居宅介護支援について・42
3 ▌研修・地域貢献活動等の実績・43
4 ▌次年度への展望・43

会　　員 …… 44
1 ▌健康教育サービスセンター会員・44
2 ▌「新老人の会」会員・44

役員・評議員 …… 45

財団報告 …… 46
1 ▌理事会・評議員会報告・46
2 ▌寄　附・47
3 ▌ピースハウス友の会・47
4 ▌ボランティアグループの活動・47

はしがき

理事長　道　場　信　孝

2018年度における当財団の活動を以下にまとめて報告いたします。本年報は日野原重明先生が亡くなられてから２回目の発行となりますが，以下に示すように全体としてはそれぞれの目標に従って成果をあげることができたと評価されます。しかし，同時に早急に取り組むべき課題もありますので，以下に各部門ごとにまとめます。

日野原記念クリニックでは久代登志男所長を中心に看護師，栄養士の積極的な関わりを通じて生活習慣病の改善を目指す継続的な健康管理の実践が効果的に行われるとともに，医師や検査部門の努力により，診断の面でも先期の上部消化管内視鏡検査に加えて，（検査科における）腹部超音波診断が格段に改善され医療技術面での改善がクリニックの質を高めているといえます。

ピースハウス病院（ホスピス）につきましては院長はじめ各職種からなるスタッフ，そして多くの熟練したボランティアの方々がそれぞれの優れた技量を十分に発揮し，特にボランティア活動においては綿密に準備された200頁にわたる手引き書に代表される20余年にわたる活動経験の蓄積は，患者に対しても大きな安らぎを与えています。日野原先生が目指した終末期の医療はこのような形でも実現されていますが，この施設にはアクセスの利便性に難があることから，医療施設としての選択が限られた地域に依存している問題は今後も続くことになります。また医療スタッフ，特に緩和ケアに特化した医師の業務の維持や質の向上のためには，ゆとりのある医師数の増員が必須といえます。本施設に併設されたホスピス研究所における活動はこれまでと同じく継続されています。今後，喫緊の課題としては施設の老朽化対策が最重要の課題です。

健康教育サービスセンターの活動は以前の砂防会館の時代のそれとは異なり，まずスペースについての制約もあり，これまでの多彩で先進的なプログラムの再現には多くの困難が伴います。そのような状況にあっても創意・工夫を凝らして多くのプログラム（がんのリハビリテーション研修，新リンパ浮腫研修，一般セミナー，模擬患者活動など）が従来通りに続けられていています。なお，2000年から続けてきた「新老人の会」に関連する本財団としての業務は本年９月末日を以て終了となり，一つの区切りを迎えることになります。

2019年５月

ライフ・プランニング・センターのあゆみ

＊1973年度から2003年度までの年表は『財団法人ライフ・プランニング・センター30年の軌跡ー私たちは何を目指して歩んできたか』に詳述しましたので，本年報ではその間のあゆみを略記しました。なお，2011年４月１日より当財団は「一般財団法人ライフ・プランニング・センター」となりました。

年	月	日	事項
1973	4	3	財団法人ライフ・プランニング・センターが厚生省より公益法人として認可取得（千代田区平河町２－７－５砂防会館５階）
	4	19	付属診療所アイピーシークリニック，東京都麹町保健所より開設許可取得
1974	4	20	財団設立１周年記念講演会開催（以降毎年開催）
1975	5	24	アイピーシークリニックを笹川記念会館に移転
	7	3－5	第１回「医療と教育に関する国際セミナー」を開催（以降1996年まで毎年開催）
	10	1	砂防会館に「健康教育サービスセンター」を開設
	12		機関誌『教育医療』発行開始
	1	22	ホームケアアソシエイト（HCA）養成講座開始（1993年より厚生省ホームヘルパー養成研修２級課程，2000年からは東京都訪問介護員養成研修２級課程資格認定）
1976	7	5－16	第１回「国際ワークショップ」を開催（以降毎年開催，1997年より国際セミナーと統合）
	9	20	平塚富士見カントリークラブ内に「フジカントリークリニック」を開設
1977	7	1	アイピーシークリニックを「ライフ・プランニング・クリニック」と改称
	8	24	第１回「LP 会員の集い」を開催（以降毎年開催）
1979	2	18	第１回「医療における POS シンポジウム」を開催（「日本 POS 医療学会」として独立）
	3	3	「たばこをやめよう会」スタート
1980	2	2	米国で開発されたハーベイシミュレーターを日本で初めて設置，心音教育プログラムスタート（1999年５月に新しいハーベイシミュレーターを設置）
1981	9	10	血圧測定師範コースを開講
	10	16	「健康ダイヤルプロジェクト事業部」発足
1982	4	1	「医療におけるボランティアの育成指導」事業開始
1983	11	7	WHO 事務総長ハーフダン・マーラー博士を招聘，「生命・保健・医療シンポジウム」を開催
1984	3	1	笹川記念会館10階に「LP 健康教育センター」を新設，運動療法の指導を開始
1985	12	1	「ピースハウス（ホスピス）準備室」を設置
1986	2	5	第１回「ボランティア総会」開催
1987	10	1	笹川記念会館の11階を拡張し，10階の「LP 健康教育センター」を移転
1989	4	20	ピースハウス後援会解散，募金２億5,989万円をピースハウス建設資金として財団が継承
1991	9	15	神奈川県中井町にピースハウス建設予定地約2,000坪の賃貸借契約締結
1992	2	3	神奈川県医療審議会，ピースハウス建設を了承
	3	31	ピースハウス開設にかかわる寄付行為を改正，厚生省の認可取得
	6	24	ピースハウス病院，神奈川県の開設許可取得
	11	2	ピースハウス病院，建築確認取得・着工
1993	4	19	ライフ・プランニング・クリニック，新コンピュータシステムテストラン開始，５月６日，本稼働開始
	5	15	財団設立20周年記念講演会「心とからだの健康問題のカギ」をシェーンバッハ砂防で開催
	8	27	ピースハウス病院竣工式
	9	23	ピースハウス病院開院式および財団設立20周年記念式典をピースハウス病院で開催
	12	28－30	第１回ホスピス国際ワークショップ「末期癌患者の疼痛緩和および症状のコントロール」をピースハウスホスピス教育研究所で開催（以降毎年開催）
1994	1	18	財団設立20周年記念職員祝賀会を笹川記念会館で開催
	2	1	ピースハウス病院，厚生省より緩和ケア病棟認可，神奈川県より基準看護，基準給食，基準寝具承認取得
	4	16	第20回財団設立記念講演会「人間理解とコミュニケーション」をシェーンバッハ砂防で開催
	9	23	ピースハウス病院関院１周年記念式典開催
1995	3	3－5	第１回「アジア・太平洋地域ホスピス連絡協議会」を国際連合大学で開催（以後毎年開催）
	5	13	第21回財団設立記念講演会「患者は医療者から何を学び，医療者は患者から何を学ぶべきか」をシェーンバッハ砂防で開催
1996	5	18	第22回財団設立記念講演会「医療と福祉の接点」をシェーンバッハ砂防で開催
1997	5	17	第23回財団設立記念講演会「今日を鮮かに生きぬく」を聖路加看護大学で開催
	11	13	砂防会館内に「訪問看護ステーション千代田」を開設

年	月	日	事　　項
1998	5	16	第24回財団設立記念講演会「私たちが伝えたいこと，遺したいこと」を千代田区公会堂で開催
1999	4	1	神奈川県足柄上郡中井町に「訪問看護ステーション中井」を開設
	5	15	第25回財団設立記念講演会「老いの季節……魂の輝きのとき」を千代田区公会堂で開催
	8	21	日本財団主催ホスピスセミナー「memento mori 長崎1999」を長崎ブリックホールで笹川医学医療研究財団と共催
2000	5	20	第26回財団設立記念講演会「明日をつくる介護」を千代田区公会堂で開催
	9	24	日本財団主催ホスピスセミナー「memento mori 香川2000」を高松市民会館で笹川医学医療研究財団と共催
	9	30	「新老人の会」発足。発足記念講演会「輝きのある人生をどのようにして獲得するか」を聖路加看護大学で開催
	10	17	日本財団主催ホスピスセミナー「memento mori 静岡2000」を浜名湖競艇場で笹川医学医療研究財団と共催
2001	2	23	厚生労働省から評議員会の設置が認可された評議員会設置等に係る寄附行為変更について，厚生労働省の認可を取得
	5	19	第27回財団設立記念講演会「伝えたい日本人の文化と心」を千代田区公会堂で開催
	8	9	日本財団主催ホスピスセミナー「memento mori 三重2001－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を津競艇場ツッキードームで笹川医学医療研究財団と共催
	8	18－19	音楽劇「2001フレディ－いのちの旅－」東京公演を五反田ゆうぽうとで開催
	8	22	音楽劇「2001フレディ－いのちの旅－」大阪公演を大阪フェスティバルホールで開催
	10	7	日本財団主催ホスピスセミナー「memento mori 宮城2001－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を仙台国際センターで笹川医学医療研究財団と共催
	10	8	「新老人の会」設立１周年フォーラム「『いのち』を謳う」を千代田区公会堂で開催
2002	6	2	日本財団主催セミナー「memento mori 北海道2002－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を旭川市民文化会館で笹川医学医療研究財団と共催
	6	22	日本財団主催セミナー「memento mori 広島2002－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を宮島競艇場イベントホールで笹川医学医療研究財団と共催
	6	29	第28回財団設立記念講寅会「いのちを語る－生と死をささえて語り継ぎたいもの」を千代田区公会堂で開催
	9	29	「新老人の会」設立２周年フォーラム「何をめざし，何をすべきか」「眠れる遺伝子を目覚めさせる」を千代田区公会堂で開催
2003	3	31	フジカントリークリニックを閉鎖
	6	7	ホスピスセミナー「memento mori 島根－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を松江市総合文化センターで日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	6	11	財団設立30周年記念講演会「魂の健康・からだの健康」並びに30周年記念式典・感謝会を笹川記念会館で開催
	7	6	ホスピスセミナー「memento mori 埼玉－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を戸田競艇場で日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	8	9－10	LPC 国際フォーラム「高齢者医療の新しい展開－健康の維持，増進から終末期医療まで－」を聖路加看護大学で開催
	8	31	ホスピスセミナー「memento mori 富山－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を富山国際会議場で日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	9	13	「新老人の会」設立３周年フォーラム「21世紀を“いのちの時代”へ」を千代田区公会堂で開催
	9	20	ホスピスセミナー「momento mori 山口－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を下関競艇場で日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	10	5	ピースハウスホスピス開設10周年記念講演会をラディアン（二宮町生涯学習センター）で開催
	10	12	第１回全国模擬患者学研究大会を聖路加看護大学で開催
2004	2	14－15	第11回ホスピス国際ワークショップ「ホスピス緩和ケア：その実践と教育－ニュージーランドとの交流－」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	5	29	第31回財団設立記念講演会「心に響く日本の言葉と音楽」を千代田区公会堂で開催
	6	19	ホスピスセミナー「memento mori 青森－『死』をみつめ，『今』を生きる－」をば・る・るプラザ青森で日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	7	4	ホスピスセミナー「memento mori 福岡－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を若松競艇場で日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	8	28－29	LPC 国際フォーラム「ナースによるフィジカルアセスメントの実践」を聖路加看護大学で開催
	9	11	第２回全国模擬患者学研究大会を聖路加看護大学で開催
	9	19	ホスピスセミナー「memento mori 滋賀－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を滋賀会館で日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	10	30	ホスピスセミナー「memento mori 新潟－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を新潟テルサで日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	11	16	「新老人の会」設立４周年秋季特別フォーラムを赤坂区民センターで開催
2005	2	11－12	第12回ホスピス国際ワークショップをピースハウスホスピス教育研究所で開催
	5	8	第32回財団設立記念講演会「今こそいのちの問題を考えよう」を銀座プロッサム（中央会館）で開催

年	月	日	事　　項
	6	26	ホスピスセミナー「memento mori 福井－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を福井県民会館で日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	7	23	ホスピスセミナー「memento mori 宮崎－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を宮崎市民プラザで日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	8	6	LPC 国際フォーラム・全国模擬患者研究大会合同企画「医学・看護教育における模擬患者の活用」を聖路加看護大学で開催
	9	17	ホスピスセミナー「memento mori 徳島－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を鳴門市文化会館で日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	10	9	ホスピスセミナー「memento mori 山梨－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を山梨県民文化ホールで日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	10	15	「新老人の会」設立５周年フォーラムを銀座ブロッサム（中央会館）で開催
2006	2	4－5	第13回ホスピス国際ワークショップ「緩和ケアの可能性－特別な場所・対象を越えて－」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	5	27	第33回財団設立記念講演会「私たちが，いま呼びかけるおとなから子供たちへ－いのちの循環へのメッセージ」を銀座ブロッサム（中央会館）で開催
	6	17	ホスピスセミナー「memento mori 岩手－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を岩手教育会館で日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	7	8－9	LPC 国際フォーラム「マックマスター大学に学ぶ医師，看護師，医療従事者のための臨床実践能力の教育方略と評価」を女性と仕事の未来館ホールで開催
	7	22	ホスピスセミナー「memento mori 岡山－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を倉敷市児島文化センターで日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	9	23	ホスピスセミナー「memento mori 兵庫－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を兵庫県看護協会で日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	10	7	ホスピスセミナー「memento mori 栃木－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を栃木県教育会館で日本財団，笹川医学医療研究財団と共催
	10	22	「新老人の会」設立６周年フォーラムをシェーンバッハ砂防で開催
2007	2	3－4	第14回ホスピス国際ワークショップ「エンド・オブ・ライフケアと尊厳」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	3	22	「ホスピスデイケアセンター」竣工式
	4	22	日本財団主催セミナー「memento mori 広島－『死』をみつめ，『今』を生きる－』を広島エリザベト音楽大学セシリアホールで笹川医学医療研究財団，「新老人の会」山陽支部，広島女学院，シュバイツァー日本友の会と共催
	6	2	第34回財団設立記念講演会「いのちの語らい－生かされて今を生きる」を日本財団主催セミナー「memento mori 東京」を兼ねて東京国際フォーラムＣ会場で笹川医学医療研究財団と共催
	6	16	日本財団主催セミナー「memento mori 埼玉－『今』を生きる～いのちを学び，いのちを伝える～」を秩父市歴史文化伝承館で笹川医学医療研究財団と共催
	7	18－19	「新老人の会・あがたの森ジャンボリー」（第１回）を松本市で開催
	7	21	日本財団主催セミナー「memento mori 石川－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を金沢市文化ホールで笹川医学医療研究財団と共催
	8	10－11	LPC 国際フォーラム「いのちの畏敬と生命倫理－医療・看護の現場で求められるもの－」を女性と仕事の未来館で開催
	10	14	日本財団主催セミナー「memento mori 秋田－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を秋田市文化会館で笹川医学医療研究財団と共催
	11	11	「新老人の会」設立７周年フォーラムをシェーンバッハ砂防で開催
2008	2	2－3	第15回ホスピス国際ワークショップ「ホスピス緩和ケア：東洋と西洋の対話－スピリチュアリティと倫理に焦点をあてて－」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	5	11	日本財団主催セミナー『memento mori 鳥取－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を鳥取市民会館で笹川医学医療研究財団と共催
	5	31	第35回財団設立記念講演会「豊かに老いを生きる」を笹川記念会館国際会議場で開催
	7	4－5	「新老人の会」第２回ジャンボリー静岡大会「新老人が若い人とどう手をつなぐか」を浜松市で開催
	8	2－3	LPC 国際フォーラム「終末期医療の倫理問題にどう取り組むか－看護・介護・医療における QOL －」を女性と仕事の未来館で開催
	10	12	日本財団主催セミナー「memento mori 長崎－『死』をみつめ，『今』を生きる－」を長崎・浦上天主堂で笹川医学医療研究財団と共催
	10	18	「新老人の会」設立８周年フォーラム「共に力を合わせて生きるために」をシェーンバッハ砂防で開催
2009	2	7－8	第16回ホスピス国際ワークショップ「エンド・オブ・ライフ（終生期）ケアの実践」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	5		ライフ・プランニング・クリニックＸ線デジタル化工事

年	月 日	事　　項
	5．16	第36回財団設立記念講演会「しあわせを感じる生き方－幸福の回路をつくる－」を笹川記念会館国際会議場で開催
	7．4－5	LPC 国際フォーラム「終末期医療・介護の問題にどう取り組むか－高齢者の終生期における緩和ケアへの新しいアプローチ－」を聖路加看護大学で開催
	7．9－10	「新老人の会」第 3 回ジャンボリー広島大会「平和へのメッセージ」を広島市で開催
	10．2	「新老人の会」9 周年記念講演会「次の世代に何を残すか」をシェーンバッハ砂防で開催
	12．	ピースハウス病院大規模修繕工事（～2010．2）
2010	2．6－7	第17回ホスピス国際ワークショップ「緩和ケアにおける全体論－人間性の複雑さに注目して－」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	4．1	「ピースクリニック中井」をピースハウス病院内に開設
	5．9	第37回財団設立記念講演会「それぞれの生きがい論」を笹川記念会館国際会議場で開催
	7．17－18	LPC 国際フォーラム「高齢者医療における緩和ケア－脆弱高齢者に対する質の高い医療の実現へ向けて－」を女性と仕事の未来館で開催
	9．3－4	「新老人の会」第 4 回ジャンボリーと「新老人の会」10周年記念講演会「クレッシェンドに生きょう－日野原流の生き方－」を九段会館で開催
2011	2．5－6	第18回ホスピス国際ワークショップ「ホスピス緩和ケアの提供とケアを提供する人々－英国・カナダ・日本の交流－」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	3．11	「東日本大震災」被災者支援のために2011年 8 月末まで救援募金を呼びかけ，日本財団の「東日本大震災支援募金」に協力
	4．1	内閣府より一般財団法人への移行認可を受け「一般財団法人ライフ・プランニング・センター」となる。
	5．21	第38回財団設立記念講演会「想いをつなぐ生きかた」を笹川記念会館国際会議場で開催
	7．9－10	LPC 国際フォーラム「がん医療 The Next Step －自分らしく生きるためのキャンサーサバイバーシップの理解とわが国における展開－」を聖路加看護大学で開催
	10．16	「新老人の会」第 5 回ジャンボリー三重大会（日野原会長百歳記念ジャンボリー）「夢を天空に描く－新たな日本の再生と創造－」を三重県営サンアリーナで開催
2012	2．4－5	第19回ホスピス国際ワークショップ「喪失と悲嘆－喪失の悲しみ，苦難を越えて－」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	5．19	第39回財団設立記念講演会「いのち つなげる いのち つながる」を笹川記念会館国際会議場で開催
	7．14－15	LPC 国際フォーラム「がん医療 The Next Step －がん医療にサポーティブケアの導入を－」を聖路加看護大学で開催
	10．27	「新老人の会」第 6 回ジャンボリー山口大会「永遠の平和を求めて－新老人のミッション－」を山口市民会館で開催
2013	2．2－3	第20回ホスピス国際ワークショップ「なぜ　そうするのか？　－緩和ケアにおける倫理とコミュニケーション－」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	5．25	第40回財団設立40周年記念講演会「よく生きること　創めること」を笹川記念会館国際会議場で開催
	7．13－14	LPC 国際フォーラム2013「より質の高い高齢者医療の実現を目指して」を聖路加看護大学で開催
	10．25	「新老人の会」第 7 回ジャンボリー愛媛大会「日本から世界に平和を発信しよう」をひめぎんホールで開催
2014	5．17	第40回財団設立41周年記念講演会「幸せな生き方の見つけかた」を笹川記念会館国際会議場で開催
	6．30	訪問看護ステーション千代田を閉鎖
	7．5	LPC 国際フォーラム2014「多様性時代の医療コミュニケーション －医療者と患者の新しい信頼関係をつくる－」を聖路加看護大学で開催
	8．28	健康教育サービスセンター事務室を訪問看護ステーション千代田の跡に移転
	9．14	「新老人の会」第 8 回ジャンボリー宮城大会「支え合い共に生きる－東日本大震災から得たもの－」を仙台プラザで開催
2015	2．7－8	第22回ホスピス国際ワークショップ「緩和ケア　続ける力　成長する力」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	3．31	ピースクリニック中井を閉鎖，ピースハウス病院休止
	4．7	「新老人の会」第 9 回ジャンボリー長野大会「平和と命こそ」を長野ビッグハットアリーナで開催
	5．1	ピースハウス病院を休止
	5．23	第42回財団設立記念講演会「いのちと私たちの生き方」を笹川記念会館国際会議場で開催
	8．8－9	LPC 国際フォーラム2015「医療と対人援助におけるナラティブ・アプローチ－語りから紡ぐ援助の関係を学ぶ－」を聖路加国際大学で開催
2016	1．4	健康教育サービスセンターと「新老人の会」事務局は千代田区一番町進興ビルに移転し業務を開始
	2．27－28	第23回ホスピス国際ワークショップ「緩和ケアの再考と新たなる挑戦－英国・香港・日本の交流－」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	4．1	ピースハウス病院は日野原記念ピースハウス病院と名称を新たにして再開
	5．28	第43回財団設立記念講演会「想いを伝える　ことばの心　ことばの力」を笹川記念会館国際会議場で開催

年	月 日	事　　項
	8．20−21	LPC 国際フォーラム2016「物語能力があなたの日々の臨床を変える－リタ・シャロン教授の『ナラティブ・メディスン』－」を聖路加国際大学で開催
	11．7－8	「新老人の会」第10回ジャンボリー東京大会「平和への思いをひとつに」を品川プリンスホテルで開催
2017	2．25−26	第24回ホスピス国際ワークショップ「喪失と悲嘆－悲嘆ケアの専門家とともに考える－」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	4．1	ライフ・プランニング・クリニックを聖路加国際病院連携施設日野原記念クリニックと改称
	6．10	第44回財団設立記念講演会「これからをこころ豊かに生きる」を笹川記念会館国際会議場で開催
	7．18	日野原重明財団理事長・「新老人の会」会長逝去
	8．8	道場信孝財団評議員が財団理事長および「新老人の会」会長に就任
	9．28	「新老人の会」本部主催により「日野原重明先生を偲ぶ会」をザ・キャピトルホテル東急で開催
	2．16	当財団と笹川記念協力財団の共催により「日野原重明先生を偲ぶ会」を日本財団ビルで開催
2018	1．－2．	日野原記念クリニック内視鏡室改装工事を実施，最新の上部消化管内視鏡と婦人科汎用超音波画像診断装置を導入
	2．24−25	第25回ホスピス国際ワークショップ「アドバンス・ケア・プランニング－いのちの終わりについて話し合いを始める」をピースハウスホスピス教育研究所で開催
	4．15	「新老人の会」第11回ジャンボリー鹿児島大会を鹿児島市民文化ホールで開催
	6．30	ライフ・プランニング・センター設立のつどい「日野原重明先生記念会」を聖路加国際大学日野原ホールで開催
2019	1．17	財団運営会議において財団の新しい「理念」と「運営の方針」策定作業に着手
	2．16−17	第26回ホスピス国際ワークショップ「生命を脅かす病と共に生きる人との対話－実践を振り返り，次のステップへ－」をピースハウスホスピス教育研究所で開催

一般財団法人ライフ・プランニング・センターの活動

2019年４月１日改訂

理念

一人ひとりが与えられた心身の健康をより健全に保ち，全生涯を通して充実した人生を送ることができるように共に歩む。

運営の基本方針

1．一人ひとりが健康について理解を深める機会を提供する。
2．生活習慣の改善により「自分の健康は自分で守る」ことができるように，根拠に基づいた医療と教育を実践する。
3．成長と発達，病気や老化の過程を通して生涯にわたり，生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）が豊かに保たれるように支援する。
4．地域の医療・介護・保健・福祉の発展に貢献するため，有機的連携をはかり，人材の育成に取り組む。
5．働きやすい職場環境をつくり，互いの役割を尊重しチームワークを実践する。
6．上記５項目を実践し継続するために，健全な財団経営を行う。

健康教育活動

健康教育サービスセンター　所在地：東京都千代田区一番町29－２ 一番町進興ビル１階

ライフ・プランニング・センターは「真の健康とは何か」を求めて，健康の獲得とそれを維持するための教育を結びつけ国民を巻き込んだ予防医療を推し進めようとして設立された財団である。健康教育サービスセンターは以来，一貫として専門職と医療の受け手への自己的学習をサポートする活動をめざして来た。教育あるいは学習とは，植物に上からじょうろの水を注ぐような一方的な育成ではなく，自らが学ぼうとする姿勢と環境を作り出すことが重要であると日野原重明先生は常に語られていた。血圧の自己測定のための教育，生活習慣病の提唱，日本が今の緩和ケアに行きつくまでのホスピスムーブメントなど，すべて医療の受け手と専門職が共に手を携えて問題を解決する方向性をすすめてきた。

私たち財団を取り巻く環境は変わりつつあるが，変わらない理念を保ちながら前進したいと思う。

1　財団設立の集い「日野原重明先生記念会」

日　時　2018年６月30日（土）　13時30分～16時15分

会　場　聖路加国際大学大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター日野原ホール

参加者　230名

プログラム

一部

13：30～13：45

開会挨拶　道場信孝　LPC 理事長

13：45～15：00

講　演　「日野原先生の精神（こころ）を継ぐ　－“医師”として，そして“人”として－」

●参加者全員で「千の風になって」をうたい偲んだ

講　師　川越　厚　先生　医療法人社団パリアン　理事長

二部

15：20～15：40

想い出を語る　「家族からみた義父」　日野原眞紀氏

15：40～16：00

「愛され続ける日野原先生の旋律」

LPC ボランティアコーラス 日野原重明 LPC 混声合唱団

指　揮　中館伸一　ピアノ　遠藤有子

演奏曲　ヴォランティアの歌・やさしい目が・just for today

16：00～16：07

閉会挨拶　紀伊國献三　笹川保健協力財団最高顧問

16：07～16：15　全員演奏　「千の風になって」

2　セミナー・講演

一般の方のためのセミナー

１）「脳神経外科医が語る　百歳まで脳を元気に保つ生活習慣術」

講　師　植村研一　先生　浜松医科大学名誉教授　脳神経外科

日　時　2018年11月22日（木）　14時～16時

会　場　一番町進興ビル２階会議室　**対象**　一般

参加人数　65名

講師：植村研一先生

２）４回シリーズ「親しい人たちとの別れとどう向き合い支えあうか」私たちのこれからを考えよう

会　場　一番町進興ビル２階会議室

コーディネーター福井みどり　LPC 臨床心理ファミリー相談室カウンセラー

●各回では活発なグループワークが行なわれた

第1回　日時　2018年12月19日（水）　14時～16時30分
参加人数　40名
財団設立記念講演会川越厚先生の講演から
日野原先生との別れを通して，「納得死」について理解を深める
ワークⅠ　さまざまな選択「平穏死」「老衰死」「自然死」「尊厳死」，「納得死」から学ぶもの
第2回　日時　2019年1月16日（水）　14時～16時30分
参加人数　43名
2000年 NHK スペシャル－生・老・病・死より
ワークⅡ　死は誰のもの「安楽死」「ホスピス」について考えてみる
第3回　日時　2019年2月13日（水）　14時～16時30分
参加人数　35名
これからの私たちの生き方－「老成」について考える
講　師　道場信孝　LPC 理事長
ワークⅢ　日々をどう暮らしていくかを考えてみる「自分らしく生きる」ということについてヒントを交換する
第4回　日時　2019年3月20日（水）　14時～16時30分
参加人数　35名
コミュニティで生きる「お互い様のコミュニティづくり」
講　師　服部満生子氏
ワークⅣ　これからの私たちの生き方を考えよう「幸せな人生」と「意味ある人生」について話し合う

医療従事者のためのセミナー

1）「医療従事者のためのフィジカルアセスメントセミナー」フィジカルアセスメントを基礎から学ぶ

日　時　2018年9月29日（土）　9時30分～16時30分
対象者　医師，看護師，訪問看護師，看護教員，理学療法士，作業療法士など医療従事者
参加人数　44名
会　場　明治薬科大学剛堂会館ビル（千代田区紀尾井町3－27）

9：30～12：30
「循環器のフィジカルアセスメント」
内　容　心不全や急性冠症候群へのアプローチのための心臓の診察（視診，触診，聴診，心音，心雑音）と末梢動静脈診察
講　師　水野　篤先生　聖路加国際病院心血管センター

13：30～16：30
「呼吸器のフィジカルアセスメント」
内　容　肺の診察（視診，触診，打診，聴診）方法の実際と慢性呼吸不全や喘息，肺炎，急性・慢性呼吸不全へのアプローチについて
講　師　皿谷　健先生　杏林大学呼吸器内科　講師

2）がん・慢性疾患の終末期に起こってくる浮腫
－病棟・在宅での対応について－

日　時　2018年11月10日（土）　10時30分～16時30分
会　場　がん研有明病院　吉田富三記念講堂
対　象　がん医療にかかわる医療職者
参加者数　153名

10：30～12：00
終末期の浮腫の理解　浮腫の診断／浮腫の解剖と生理
講　師　保田知生先生　がん研会有明病院医療安全副部長

●がん医療にかかわる参加者たち

終末期の浮腫
　講　師　宇津木久仁子先生 がん研究会有明病院婦人科副部長
13：00～14：00
施設（病棟・外来）ケアでの浮腫へのアプローチ
　講　師　田端　聡先生・松尾千穂先生
がん研究会有明病院リンパケアチーム
14：00～15：00
在宅ケアでの浮腫へのアプローチ
　講　師　熊谷靖代先生　野村訪問看護ステーション
15：15～16：30
施設から在宅へのケアの連携　全員講師

3　厚生労働省後援研修

1）厚生労働省後援がんのリハビリテーション研修 CAREER（Cancer Rehabilitation Educational Program for Rehabilitation Teams）研修

2016年12月に成立したがん対策基本法改正法では「がん患者の療養生活の質の維持向上に関して，がん患者の状況に応じた良質なリハビリテーションの提供が確保されるようにすること」が新たに盛り込まれた。それを受けて，第３期がん対策基本計画においては，ライフステージやがんの特性を考慮した個別化医療の必要性が重点課題とされ，がんリハビリテーションは分野別施策の一つとして位置づけられた。このようにがん医療におけるリハビリテーションの重要性はますます増してきている。

●大講堂での座学（CAREER 研修）

●グループに分れてのワークショップ（CAREER 研修）

当財団の事業としては2007年から2013年に，厚生労働省委託事業として，関連する学協会から推薦された委員から構成される，「がんのリハビリテーション研修委員会」の協力のもと，「がん患者に対するリハビリテーションに関する研修事業」がライフ・プランニング・センターの主催のもと行われ，がんに携わる医療従事者を対象とした研修プログラムの開発，研修等が行われた。引き続き，2014年からは厚生労働省後援事業として，「がん患者リハビリテーション料」の算定要件を満たすための研修会（CAREER）の開催とともに，研修修了者の名簿管理やフォローアップ研修の開催，ファシリテーター研修，標準スライドの改訂作業（毎年１回），地方開催の研修会の支援サイトビジット（研修内容の評価・指導）を実施している。

当財団が関係する，研修を修了しているスタッフのもとがんリハビリテーション医療を実施している拠点病院の割合は，2016年10月の調査で88.5％（がん情報サービス調べ）である。このようにがんリハビリテーションにチームで関わるスタッフ（医師・看護師・リハスタッフ）の育成は図られつつあり，研修事業による一定の成果が得られたといえる。しかし，これらの領域はその需要の拡大とともに，急速に進歩しており，医療の質の維持･向上のためには，新しい知識やスキルを受講修了生に対しても迅速に伝達することが今まで以上に求められている。

2）リンパ浮腫研修

がん治療後のリンパ浮腫については複合的治療の担い手を養成する座学研修として，厚生労働省後援新リンパ浮腫研修を推進してきた。今後は，これらをがん医療に

新リンパ浮腫研修

主催：一般財団法人ライフ・プランニング・センター
後援：厚生労働省

終了試験 合格者数	
平成27年度	
第1回試験	221名
第2回試験	319名
平成28年度	
第1回試験	211名
第2回試験	249名
第3回試験	363名
平成29年度	
第1回試験	282名
第2回試験	281名
平成30年度	
第1回試験	241名
第2回試験	160名

平成25年度から開始。現在までに9回開催（のべ2100名以上）受講済み。
職種は医師/看護師/PT/OT（28年度から、あん摩マッサージ指圧師を含む）

●各団体が参加するリンパ浮腫交流研修会

関わる医療スタッフ一般に向けても教育機会を広げていくことで，発症前の予防および軽症段階の適切な指導がより可能になると思われる。

リンパ浮腫治療のための医療スタッフの質の向上のための座学研修は2013年より，年間500名を超える修了者を養成して来たが，これに加えて行われる実技スキル研修はマッサージから発展した治療として団体ごとに独自に行われていた。これらの団体をリンパ浮腫の複合的治療のための実技研修協力団体（2018年度は11団体）として，教育的質の統一をはかり，オールジャパンとして相互の連携と基本的な教育内容のレベルアップのために以下のような支援を委員会を通じて行っている。

・教育的環境と教育要綱に従った内容への外部視察
・研修協力団体の研修情報の告知
・交流研修会と意見交換会の実施

3）e－ラーニング研修への準備

これまでの現状をふまえ，「がんリハビリテーション」や「リンパ浮腫」に関する研修に関して，新たな研修の展開が期待される今後は，学習機会の制限や学習者への時間的負担となる集合学習の時間的制約を縮小し，

1）チーム医療（施設内や地域連携等のネットワーク）に関するグループワークを中心とした集合学習
2）自己学習でのe－ラーニングシステムを組み合わせて実施することで，種々な課題を克服することが可能になると同時にリハビリ領域における医療スタッフの教育の充実が整備されると考えられる。今年度はこれらの課題にも取り組んだ。これらにも主催団体として貢献して行きたい。

4）がんのリハビリテーションアドバンスコース

国の施策である第３期がん対策推進基本計画が進むなかで，“患者中心の良質で的確な”がん医療の実践において，チームによる質の高いがんリハビリテーションの実践がますます注目されるものになっている。

今回，すでに基本研修である「がんのリハビリテーション研修」を受講し，がん医療の現場で活躍している医療者の「最新のがん治療におけるリハビリテーション知識を得たい」とのニーズに応えて「がんのリハビリテーション CAREER アドバンス研修」を実施した。

がんのリハビリテーション関連研修参加人数

がんのリハビリテーション CAREER 研修参加人数		
日　程	参加施設数	人数
2018年５月19日(土)，20日(日)	47施設	258名
６月16日(土)，17日(日)	39施設	214名
７月28日(土)，29日(日)	50施設	268名
10月13日(土)，14日(日)	42施設	226名
11月17日(土)，18日(日)	37施設	209名
12月15日(土)，16日(日)	32施設	175名
2019年１月26日(土)，27日(日)	48施設	265名

がんのリハビリテーションアドバンス研修参加人数	
場　所	人　数
７月14日(土)東京（聖路加国際大）	180名
３月23日(土)東京（聖路加国際大）	149名

新リンパ浮腫研修参加人数		
研修回	場　所	人数
第１回（Step１－２）	大崎ブライトコア（東京）	256名
８月11日(金)，12日(土) ９月23日(日)，24日(祝)		
第２回（Step１－２）	神戸大学シスメックスホール	503名
２月９日(土)，10日(日) ３月９日(土)，10日(日)		

4　調査・研究協力について

本年度は２件の科学研費調査の報告と１件の科研費研究に協力を行った。

テーマ	研究機関と担当研究者	内容	期間と報告	協力内容
「健康と医療に関する調査」	研究代表者 聖路加国際大学 保健医療社会学・看護情報学 中山和弘	科研費　基盤研究 「高齢者におけるヘルスリテラシーの習得プロセス及び情報源・サポート資源との関連について」	実施 2017年４月～６月 結果報告（財団会報） 2018.9月号 中山和弘　高橋勇太	新老人フィールド提供量的調査会員1,500名 60歳以上の会員 ［回収実績 626名 回収率 41.7%］
「老成学に関する調査」	研究代表者 浜松医科大学医学部 倫理学 森下直貴	科研費　基盤研究 「最晩年期の高齢者の生き方に関する調査」	実施 2017年10月上旬 結果報告（財団会報） ①2018. 4月号 ②2018.10月号 ③2018.11月号 鶴若麻理　森下直貴	新老人フィールド提供量的調査３年以上会継続の78歳以上会員2,876名 ［回収実績 1,162名 回収率 40.4%］
「がんリハビリテーションの均てん化に資する効果的な研修プログラムの策定のための研究」	研究代表者 慶應大学医学部 辻　哲也 研究分担者９名	がんリハのあり方の提言の作成，研修プログラムの立案，学習目標の設定，研修プログラムの教材作成し，研修プログラムを完成させ，全国のがんリハ研修での導入を目指す。	2018年４月～2021年３月	班会議運営支援 e-ラーニング準備支援 システム構築

5　出版広報活動

出版・広報活動

１．月刊『一般財団法人ライフ・プランニング・センター』ー教育医療・「新老人の会」ー通巻28～39号（4,000部／８頁４色・2019年より４頁／４色）

2018年度前期は財団の理事長であった日野原重明先生と親交のあった方々に協力いただき，財団の足跡や「新老人の会」の活動を通して日野原先生の功績を振り返った。後期は「新老人の会」全国の世話人代表に巻頭言を執筆していただいた。

4月　いのちの授業は引き継がれて
宮前平小学校　斉藤康行先生

5月　日野原先生と，母いわさきちひろ
ちひろ美術館常任顧問　松本猛氏

6月　明日をつくる十歳のきみへ－読後感想文
大阪市在住　前田百夏氏

7月　日野原先生の声が今も
東京大空襲・戦災資料センター館長　早乙女勝元氏

8月　日野原先生の遺言－納得死を実現するための医療－財団設立記念講演会より
医療法人社団パリアン理事長　川越厚先生

9月　小学校の授業にも採用されて
特別支援学校　守屋智子先生

10月　日野原先生とジョン万次郎
中浜万次郎の会・会長　北代淳二氏

11月　遠藤周作の医療観
弘前大学名誉教授　吉田豊先生

12月　次世代への平和の種まき－記念フォーラムより
東京大空襲・戦災資料センター館長　早乙女勝元氏

1月　日野原重明先生とウィリアム・オスラー博士
天理医療大学長，京都大学名誉教授　吉田修　先生

2月　医療者が文化人類学を学ぶ意義
元鹿児島市医師会会長　鹿島友義先生

3月　メイヨークリニックの理想を追って
大分記念病院名誉理事長　高田三千尋先生

報告／平野　真澄（健康教育サービスセンター所長）

「新老人運動」と「新老人の会」の運営

「新老人の会」事務局　所在地：東京都千代田区一番町29－２ 一番町進興ビル１階

「新老人の会」は，ライフ・プランニング・センター理事長である日野原重明先生が提唱された「新老人運動」に賛同する方々の集まりとして2000年９月に発足し，当財団の事業の一環として運営してきた。以来18年間この運動を全国的に展開することができ，2011年には12,000人を超える会員を擁するまでになった。会員の生き方や，地域における精力的な活動を通して，当会の成果を社会に発信し，「日本の超高齢化社会の生き方のモデルを提示した」と評価されるまでになった。このようなことから，当会の理念も社会に広く浸透し当初の目的は達成されたと考えられる。

しかし，日野原重明先生亡き後の求心力の低下は否めず，会員数はピーク時の半数まで減少しており，このままの体制を続ければ会の力は衰えるばかりと思われる。このような状況を踏まえて，今後「新老人の会」をどのように運営していくことがよいのか。日野原先生の１周忌を前にして，当財団の事業としての運営を検討することとなった。

多くの会員に会員継続をしていただくには，全国組織としての運営をするのではなく，全国の各支部と本部が，それぞれに独立した「新老人の会」として自由に運営することにより，これまでに培った絆を大切に，地域の特色を生かして活動することが望ましいとの結論に至った。

そこで，「新老人の会」世話人会（全国の代表16人からなる）を開催し，実情を説明した上で意見交換をした結果，やむを得ないことと承諾を得ることができた。

続いて，このことを書簡にまとめ全国の支部世話人代表に送付し了解を得た。2018年９月末日を以て，会員継続登録を中止し，2019年９月末日で当会の本部機能を終了すること。それまでに，各支部を基盤とする独立した「新老人の会」を立ち上げていただくことをお願いした。そして，全会員には会報８月号に書簡を同封して周知を図った。

各支部においては，これまで当財団が担ってきたさまざまな仕事を引き受けなければならないが，日野原先生の遺志を継いで「新老人運動」を地域に発信するために，新組織の立ち上げに取り組むこととなった。その結果，全国42支部のうち８支部が解散，34支部と本部が，新組織を立ち上げて活動していくこととなった。

本年度は当会にとって激動の１年であったが，発足から18年間，会員が「新老人運動」の理念に沿った活動を各地に展開する中で，お互いの間に培った絆が存続への力になったと思われる。これからは，会員が自主的に各会を運営し活動していくことになるが，「新老人運動」が地域に根差した形で継続し発展していくことが期待される。

●「新老人運動」の趣旨

日野原先生は，高齢化の道を突き進んでいる日本の高齢者が，どのような生き方をすればよいかを，1999年に作成した当財団のリーフレット「新老人－実りある第三の人生のために」によって世に問いかけ，翌2000年９月に「新老人の会」の設立に至った。

「新老人運動」とは，日野原先生が日本の医学医療を革新するリーダーとして培ってきたものをベースに，日本の高齢者が健やかで幸せな生涯をおくることができるように願ったものである。高齢者が自立して，この年代でなければできない社会貢献をし，生きがいを感じられる生活を行っていただくために，つぎのような「生きがいの３原則」と，一つの使命，５項目の目標を掲げたものである。

●生きがいの３原則（ヴィクトール・フランクルの哲学より）

①愛すること（to love）　②創めること（to be creative）
③耐えること（to endure）

●一つの使命

「子どもたちに愛と平和の大切さをつたえること」

●５つの行動目標

①　自立：自立とよき生活習慣やわが国のよき文化の継承。

本会は，75歳以上をシニア会員，75歳未満をジュニア会員，60歳未満をサポート会員とし，老後の生き方を自ら勇気をもって選択し，自立とよき生活習慣をそれぞれの家庭や社会に伝達するとともに，次の世代をより健やかにする役割を担う。

②　世界平和：戦争体験を生かし，世界平和の実現を。

20世紀の負の遺産である戦争を通じて貧しさの中から学んだ体験と人類愛を忘れた生き方の反省から得られた教訓を次の子どもや孫の世代に伝え，世界平和の実現に寄与する。

③　健康の発信：自分の健康は自分で守る。

自らの健康は自らで守るために必要な医学医療の知識や技術を身につけ，家族や社会の人々に伝達するとともに，医学・医療の研究に寄与する。

④　会員の交流：会員がお互いの中に新しい友を求め，会員の全国的な交流を図る。

健やかな第三の人生を感謝して生きる人々が，さらに新しい自己実現を期して交流し，心豊かな老年期を過ごす。

⑤　自然に感謝：自然への感謝とよき生き方の普及

過度に成長した不健全な文明に歯止めをかけ，与えられた自然を愛し，その恩恵に感謝し，その中によき生き方の普及を図る。

「新老人の会」とは，これらの趣旨に賛同する方々を会員として，広く社会に啓発活動を展開していこうとするものであり，会則，地方支部規約に基づいて運営してきた。今後は，会員がこのような理念を継承し，地域に根差した形で活動を展開し，交流を図っていくことになる。

1　地方支部

地方支部は「会則」「地方支部規約」に則して運営され，支部の財政は本部より支部の会員数に応じて年会費の50％を「地方活動助成金」として交付し，これをもとに活動を展開してきた。

本年度は日野原会長という求心力を失ったことによる会員数の減少，会員の高齢化により支部活動を維持することが困難となり４支部が解散し，42支部でスタートした。その後の当財団の決定を受けて，各支部を基盤にした独立した組織への移行に取り組み，34カ所の新組織が誕生することとなった。

2　「世話人会」の開催

本部では事業の遂行に関する重要な事項を検討し決定する機関として，「世話人会」をこれまで年間６回と全国の支部世話人代表を招いて開催する「拡大世話人会」を年１回開催してきた。昨年度の「第19回拡大世話人会」において，「新老人の会」の本部世話人会が東京の世話人ばかりでは各支部の意向が反映されない。世話人は全国から選出すべきではないかという提案を受けて，４月に全国から16人の世話人が次のように選出された。

植村研一	内田泰史	大西金吾	熊澤誠一郎
小山和作	榊原節子	佐藤牧人	沼田祥子
橋本京子	原　寛	武用愛彦	牧　壮
松原博義	三木哲郎	宮川ユリ子	吉田　修

（敬称略・五十音順）

本年度は，第１回「新老人の会」世話人会を６月29日(金)13：30～16：30，剛堂会館において開催した。出席者は15名の本部世話人，道場信孝会長，熊谷三樹雄財団事務局長，事務局から４名が出席した。この会において，当財団下での「新老人の会」の事業を終了のやむなきに至ったことを説明し了承を得ることができた。その後，第２回を書面会議として９月末に，第３回を12月末に，併せて３回行った。

3　「拡大世話人会」の開催

「拡大世話人会」は１年に１回，会則に則って本部の世話人会を拡大，地方支部の世話人代表に参加していただき研修，交流するものである。その目的は，①会の目標，活動方針を確認し合い共有する，②支部の活動，運営について情報を交換し合う，③今後の展望を明確にして共有する，④全国の支部の代表者が交流を図る，の４点を上げている。

2015年度までは１泊２日のプログラムで，初日は情報交換と交流，２日目は研修というプログラムであったが，その後は，多くの方々に参加していただけるよう１日のみの開催とした。

本年度は，現体制で最後となる「第20回拡大世話人会」を2019年３月17日(日)に開催したが，全国41支部（３支部欠席）の代表と本部世話人，「新老人の会」東京の世話人，事務局を合わせて総勢77名の参加であった。

日　時　2019年３月17日(日)13：00～19：30
会　場　ホテル・ルポール麹町
参加者　41支部の世話人代表（または代理），本部世話人，「新老人の会」東京の世話人，事務局　77人

プログラム　13：00～19：30

一部

Ⅰ　開会の挨拶　……道場信孝会長
　　財務報告　……熊谷三樹雄財団事務局長

Ⅱ　各支部の今後について（提出資料をもとに報告）
　　……石清水由紀子「新老人の会」本部事務局長

二部

Ⅲ　各「新老人の会」の連携について（自由討議）
……小山和作熊本支部世話人代表
Ⅳ　日野原先生の遺志を継いで－DVD「心に響く講演」を上映
Ⅴ　夕食交流会
・スペシャルゲスト　……日野原眞紀氏のお話
・乾杯　……吉田豊青森支部世話人代表
・閉会の挨拶　……吉田修奈良支部世話人代表

●一部の概要

1）はじめに：

道場信孝会長から「新老人の会」の組織としての大きな変革を受け止めて，独立した組織の立ち上げに取り組んでおられること，日野原先生の偉業のひとつが各地に特色ある形で引き継がれることへの感謝が述べられた。

熊谷三樹雄事務局長から「新老人の会」会員数の推移のグラフ，本年度の収支計算書をもとに財務報告があり，今期は1,267万円のマイナスとなっているが財団の全体会計の中で処理されると報告があった。

2）各支部の今後について：

各支部が，今後の活動を，報告書をもとに説明してたが，活動を継続することは決めているが，詳細は相談中の支部もいくつかあった。会の名称について「新老人の会」の老人が敬遠されるので名称から「新老人」を外した会がある一方，日野原イズムの象徴が「新老人の会」であるからと，あえて「新老人」を残した会も多かった。１支部３分のもち時間に，前向きで特徴が表れた報告がなされ，今後の各会のあり方を分かち合うことができた。

●二部の概要

3）各「新老人の会」の連携について：

本部世話人の小山和作氏の司会で，これまでの全国組織を生かして連携を維持し，協力して発展していくための意見交換が行われた。ゆるやかな連携の必要性，マンパワーのあるところでまず引き受けてほしいとの具体的な提案があった。これに対して，日野原家からの寄付をもとに東京の会で1.8坪の事務室を借用することができた。ここにPC，電話複合機を設置し，ホームページを開設することができる。ITを使って連携をとる事務局は東京で引き受ける。連合会の代表は，本部世話人会の互選でということで合意が得られた。

4）日野原先生の遺志を継いで－DVD「心に響く講演」の上映：

参加のみなさんとともに，ありし日の日野原先生を偲ぶことができた。

●三部

本年は日帰りの方が多かったが，74名の参加で盛況に交流を図ることができた。はじめにスペシャルゲストの日野原眞紀さんから，ご自宅で療養しておられた日野原先生の最期の様子をお話しいただいたが，それらは，後に続く人々の示唆となるものであった。日野原先生が，時代や状況が変化する中にあってもKeep on goingと前進することを言い残されたことは，「新老人の会」が進むべき道を指し示しておられたように思われる。

4　地方支部の運営と活動

2018年度は，地方支部フォーラム（講演と音楽の会）を８カ所で開催したが，日野原先生がおられた頃のような大会場での開催は難しく，多くは500人以内の会場での開催となった。

「新老人の会」でなければできない活動の筆頭として「戦争体験を語り伝える授業」と「戦争体験記」の出版が挙げられる。戦争体験の語り部として，2004年から取り組んできた兵庫支部は，これまでの14年間に6,700人を越える子どもたちに語り伝えることができた。

一方，戦争体験記の出版は，本部，支部を併せて15冊を数えている。これらは，当会でなければできない社会に貢献する活動として注目されているが，戦争体験者が年々少なくなっていく中で，今後どのように継続していくかの対策が急がれる。今こそ，先の戦争の過酷な体験を風化させないことこそが新老人に与えられた使命であると確信する。

また，「子どもたちに平和と愛の大切さを伝えること」を一つの使命として掲げているところから，日野原先生の「いのちの授業」に習って，自分たちで工夫した内容の「いのちの授業」を行っている支部がいくつかある。

植樹運動では，まず福岡支部が始めた「樹人千年の会」，これに触発された信州支部，長野支部の「いのちと平和の森」の活動，熊本支部の「飯田山に桜を植える会」，鹿児島支部の「指宿の山への植樹」へと広がりをみせている。

会員が交流するためのさまざまなサークル活動，講演

や音楽を取り入れた会員集会，お花見や紅葉狩りなど野外での会員の交流会，史跡探訪，小旅行，観劇，など，地域性のあるユニークな活動も年ごとに豊富になっており，特に高齢の会員には喜ばれている。

これらの活動を活発にするために「支部ニュース」の発行が必要であるが，最近では充実した内容のニュースが多くなっている。これらの紙面から支部活動の様子が読み取れ，支部同士の情報交換の手段ともなっている。

2018年度は42支部でスタートしたが，そのうち８支部が解散することとなった。地方支部の世話人代表は以下の通りである。

１）地方支部世話人代表（設立・敬称略）

1．福岡　支部：原　　寛
2．兵庫　支部：冨永　純男
3．京滋　支部：津田佐兵衛　（３月31日解散）
4．広島　支部：黒瀬真一郎　（３月31日解散）
5．東海　支部：林　　博史　（３月31日解散）
6．大阪　支部：三木　哲郎
7．信州　支部：橋本　京子
8．宮城　支部：佐藤　牧人
9．山梨　支部：上矢　慶一　（12月31日解散）
10．高知　支部：内田　康史
11．鳥取　支部：小田　蓉子
12．新潟　支部：佐藤　幸示
13．熊本　支部：小山　和作
14．静岡　支部：大久保忠則　（３月31日解散）
15．宮崎　支部：青木　賢児
16．鹿児島支部：鹿島　友義
17．富山　支部：林　　和夫
18．岡山　支部：武用　愛彦
19．三重　支部：熊澤誠一郎
20．青森　支部：吉田　　豊
21．山口　支部：西　　祐司　（９月30日解散）
22．群馬　支部：浜名　敏白
23．石川　支部：鈴木　雅夫
24．沖縄　支部：鈴木　　信
25．長崎　支部：押渕　礼子　（12月31日解散）
26．和歌山支部：有田　幹雄
27．神奈川支部：吉原　一郎
28．千葉　支部：植村　研一
29．山形　支部：遠藤栄次郎　（12月31日解散）
30．大分　支部：高田三千尋
31．愛媛　支部：貞本　和彦
32．徳島　支部：坂東　　浩
33．佐賀　支部：溝上　康弘
34．香川　支部：大原　昌樹
35．はりま支部：田口　利昭
36．富士山支部：遠山　和成
37．滋賀　支部：嘉田由紀子
38．長野　支部：中澤　弘行
39．岩手　支部：斎藤　和好
40．栃木　支部：小菅　　充
41．福井　支部：栗田　幸雄
42．奈良　支部：吉田　　修

２）地方支部フォーラムの開催（表１）

本年度は，８支部が広く一般の参加者を募ってフォーラムを開催した。大分支部は，加藤登紀子氏を招き日野原先生の１周忌を記念しての開催であったが，600人の参加で大盛況のうちに開催された。京都，山口，石川支部の３か所が，日野原先生がおられたころのプログラムで，家森幸男先生に講演していただき，いずれも200～300人の参加であった。

３）子どもたちに「いのちの大切さ」を伝える

日野原会長の「いのちの授業」をモデルに，支部活動として独自の発想で「いのちの授業」を展開している支部が多くなった。会員の戦争体験を通して，あるいは，会員が自身の特異な経験をもとに，また，日野原先生の著書から着想を得るなど，数人でチームをつくり「いのちの大切さ伝える授業」を展開している。以前から実施している信州支部，宮崎支部などに加えて本部が取り組みはじめた。次世代に「いのち」の大切さを伝える活動で，「新老人の会」だからこそできる社会貢献活動として全国的な展開が期待されている。

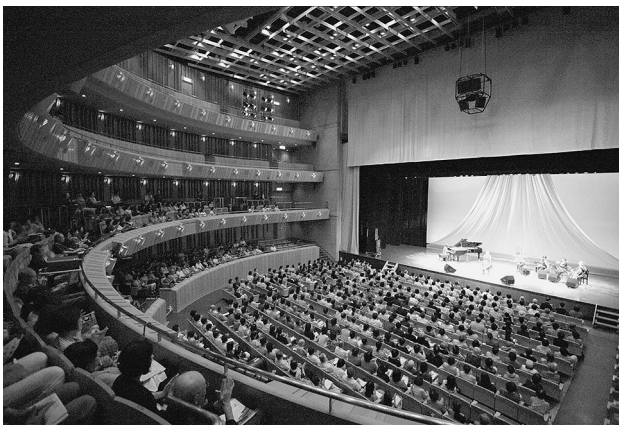
４）戦争体験を伝える活動

兵庫支部では，2003年からサークル活動の一つとして「戦争体験を伝える」活動に取り組み，小学校の平和学習の一環として６年生の広島への修学旅行の１カ月前に行われている。会員が戦争体験を通して「平和といのちの大切さ」を伝え，その後，生徒が修学旅行の見聞と合わせてグループワークで話し合い発表するという学習である。これまでの14年間で6,700名を超える子どもたちにこの活動を行った。

表１　「新老人の会」支部・本部主催フォーラム　開催回数全８回　集客数合計2,770人

	開催日	支部名	講師・テーマ	会場	動員数
1	７月17日	大分支部	加藤登紀子が歌う日野原重明先生の心	別府ビーコンプラザ	600
2	８月26日	京都支部	家森幸男　目指す元気な110歳	京都商工会議所ホール	300
3	９月９日	山口支部	家森幸男　健康寿命は自分で延ばせる	山口市民会館小ホール	350
4	９月17日	四国連合	海老塚秀和　この世は私の花を咲かせに来たところ	高知県立県民ホール	250
5	10月４日	本部	早乙女勝元　平和の種を播き続けよう	江東区文化センター	220
6	11月18日	石川支部	家森幸男　健康寿命目指す４つの実践	金沢ニューグランドホテル	150
7	11月28日	兵庫支部	富永純男　「生き方上手」	西宮フレンテホール	170
8	12月23日	滋賀支部	馬場忠雄・堀越昌子　未来へ新たな一歩	滋賀県男女共同参画センター	300
				総動員数	2,340

●高知市で開催された四国連合フォーラム



●大分支部フォーラム

熊本支部では，10年前から毎月のように一般市民を対象に「戦争体験を語り継ぐ会」を開催して100回を超えるまでになった。これをもとに「語り残す戦争体験」Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ巻の刊行と，３年をかけて準備し「零の進軍」上下巻の出版に至った。これを契機に，戦争資料館「ピースくまもと」（仮）をつくろうとの案がもち上がり，広く市民団体に呼びかけ，設立準備会をもって取り組んでいる。

５）「樹人千年の会」，「いのちと平和の森」の活動

2004年に当時の九州支部が自然環境保護を目的に「お墓の代わりに自分が生きた証としての樹を植えよう」と始めた活動が「樹人千年の会」である。会員を対象に福岡市郊外の地に約200本の樹が植えられ，会員たちの手で管理されている。

これに触発された信州支部の会員が中心になって2005年に「いのちと平和の森」構想に取り組み，松本市郊外のアルプス公園近くの市有地を借り上げ，ここを中心に自分たちが生きた証として「いのちの樹」を植えて森をつくり，次の世代に継承していこうとするものである。これは長野県に特定非営利活動法人（NPO）として申請し，2007年５月１日認証登記された。熊本支部では「飯田山に山桜を植える会」を活動の一つとして2007年から取り組んでいる。会員の知人が所有する山を「何とか活用できないか」と相談を受けたのがきっかけとなって山桜を植える計画が持ち上がり，これまでに200本を超える山桜を植えることができた。今では花見ができるまでに成長している。

６）講演会・映画上映会・音楽会の開催

会の趣旨に沿ったテーマで，講師を招いて講演会を開催したり，映画上映会，音楽会など，一般の方々を招いて「新老人の会」をアピールする機会をつくっている。

７）各種サークル活動

当会の発足当初から「新しいことを創める」「新しい友を求める」契機として，さまざまなサークル活動を展開してきた。サークル活動を通して仲間ができ，楽しんで

いる人は退会しないといわれているが，支部活動の中でも取り組みやすく効果的な活動である。

8）会員交流会，バスツアー，小旅行

例会と称して毎月または隔月に会員が集まる機会をつくっている支部が多い。歴史探訪，野外散策などの活動，バスツアー，小旅行を実施している支部もある。和歌山支部では，春秋のバスツアーが好評でバスの定員を超えての参加申し込みがあるとのこと。青森支部では１泊２日の研修旅行を行い，県内外を探訪しながら会員の交流を図っている。

9）支部ニュースの発行・支部ホームページの開設

支部ニュースの発行は隔月から年１～２回発行までさまざまであるが，支部活動が活発に行われるとニュースが発行でき，ニュースによって活動が活発になるという相乗効果がある。ホームページの開設は，会員の年齢構成からインターネットの利用が一部に限られるため，13支部と限定的になっている。

5 海外支部

日野原会長が海外から講演の招聘を受けた際には，全国の会員に呼びかけて同行参加していただき，現地の日系の方々と交流の機会をもっていた。そのような中から「新老人の会」の趣旨に賛同する方々が入会され，支部を設立して活動していきたいということになった。2007年，日野原会長のメキシコ講演会を機に海外支部第１号としてメキシコ支部を，2009年にハワイ支部を，2013年にはオーストラリア支部を設立した。日野原会長逝去により，ハワイ支部は2017年10月に，メキシコ支部は2018年11月に解散した。

6 海外連絡団体

2009年度から海外支部に準じて，「新老人の会」の理念を啓発する目的で設立され，諸外国政府機関の承認を得た団体に対して連係関係をとるために，「『新老人の会』とその「海外連絡団体に関する規定」を制定した。

これまでに，「台湾新老人会」と「オーストラリア新老人の会（Association of New Elderly）」がこれに該当し，本部から毎月「ライフ・プランニング・センター会報」を１部送付している。

7 スマート・シニア・アソシエーション（SSA）の活動

SSA 講座

４月19日　スキルス性胃がんステージⅣからの生還　泉水繁幸さん

６月14日　いまさら本気の理科実験２　鏡の不思議と立体万華鏡　松延　康さん

また，SSA では，全国のメンバーを対象に１泊２日の小旅行を企画し好評を得ている。本年度は，静岡県の「ねむの木学園」と NHK 大河ドラマで有名になった「直虎ゆかりの地」を訪ね，地元の富士山支部，静岡支部のメンバーも案内役に加わり有意義で楽しい旅となった。

8 本部の活動

1）本部サークル活動

本年度は23のサークルが開催された。

俳句（木下照嶽）／コーラス（桑原妙子）／共に語ろう会（嶋義明）／詩吟の会（古田多美子）／英語の会（髙木暎一）／スローピッチソフトボール（和田良夫）／今昔歩き（五十嵐健／礒村二郎）／フラダンス（宮川ユリ子）／源氏物語講読会（竹田照子）／世界を語る会（水野茂広）／自分史（森恵子）／エッセイ（井上悦子）／丹田（櫻井忠敬）／川柳（大野風柳）／さっそうクラブ（本田愛子）／いきいき健康体操（小林貴子）／何でも話そう日曜昼食会（冨田隆史）／ハンドベル（吉田多恵子）／吹矢（吹矢協会）／民間外交（日吉慶子／榊原節子）／大人のアート（吉島洋子）／吟行（本多正之）

2）サークル活動のトピックス

●コーラスフェスティバル参加

４月15日　ゴールデンウェーブ in 横浜

７月27日　第一回東京国際合唱コンクール

11月８日　ヴィザン ジョイント・コーラスフェスティバル in 横浜

●今昔歩き

４月27日　三百年松の浜離宮恩寵庭園

５月30日　神田上水水源湧水池井の頭公園

９月28日　旧停車場から銀座路地裏散歩

●第14回日野原重明カップ

本大会は日野原先生の追悼大会として開催された。

●リレー・フォー・ライフに参加

●平和の尊さを語る早乙女氏

3）リレー・フォー・ライフ　ジャパン　東京に参加

10月13・14日上野公園にて総勢20名が参加

4）いのちの授業

日野原先生の遺志を継ぎ，会員の藤原妙子さんによる「いのちの授業」が本部ではじまって２年目となるが，本年度は下記の通りである。昨年から通算41回となっている。

・2018年	６月１日	岩手県花巻市立東和小学校	70名
	７月６日　10日	川崎市立西有馬小学校	160名
	７月23日	下平間わくわくプラザ	60名
	７月23日	古川小わくわくプラザ	80名
	７月24日	古市場小わくわくプラザ	50名
	12月25日	麻生小わくわくプラザ	52名
・2019年	１月21・22日	子母口小学校	142名
	１月25日	下平間小学校	75名
	２月７・12日	鷺沼小学校	122名

5）有志の会

2018年からは，日野原先生をしのび，日野原先生の活動にまつわるテーマを持ち月１回の活動を展開した。

４月　日野原重明追悼演奏会「レクイエム」ビデオ上映

５月　朝日新聞 Be の編集者寺下真理加さんを招いて編集のエピソード。

６月　会員の戦争体験を聞く　芝山均さん，馬場和子さん，井上繁さん，牧壮さん

７月　いのちの授業公開講座　本部会員藤原妙子さん

6）「新老人の会」日野原重明先生生誕107年記念フォーラム　平和の種を播き続けよう

日　　時　2018年10月４日（木）13時～16時

会　　場　江東区文化センターホール

参 加 者　220人

プログラム

第一部　日野原先生が描いた「新老人の会」の活動
……石清水由紀子
「いのちの授業」を引き継いで ……藤原妙子
平和へのメッセージ　……小泉靖子

第二部　講演「次世代への平和の種まき」―東京大空襲を生き抜いて―
……東京大空襲・戦災資料センター館長
早乙女勝元　氏

第三部　音楽の力で　……ピアノ　今野尚美さん
ソプラノ　久島美雪さん

活動の内容

第一部では「新老人の会」の活動の中から小学校での「いのちの授業」と，戦争体験を語り継ぐ活動を紹介した。

第二部では民立民営で運営する東京大空襲・戦災資料センター館長の早乙女勝元先生をお招きし，戦争体験を通して平和の尊さを伝える活動を紹介した。日野原先生は高齢者が社会的責任を負いながら積極的に社会参加されることを提唱し，戦争体験のある人は，本当の平和の尊さを伝える使命がありそれを次世代に伝えることを活動の１つとしていた。日野原先生107年の生誕記念に，早乙女先生のお話を会員とともに伺えたことは大変貴重なことであった。

第三部　日野原先生縁の音楽や即興曲，唱歌などをお楽しみいただいた。

●高校生による吹奏楽演奏

●鹿児島大会での沈氏と村田氏

●交流会では地元のアトラクションが披露された

9 第11回「新老人の会」ジャンボリー 鹿児島大会

日　時　2018年４月15日（日）
会　場　鹿児島市民文化ホール／城山観光ホテル
大　会　13：00～16：30
交流会　18：30～20：30
参加者　フォーラム　818名（全国からの会員と地元鹿児島の参加者）
会員交流会　311名

●プログラム

開会の辞　……鹿児島支部世話人代表　鹿島　友義
挨拶　……「新老人の会」会長　道場　信孝
「新老人の会」の活動紹介
……「新老人の会」本部事務局長　石清水由紀子
特別講演　１.「陶房雑話」　……十五代　沈壽官
２.「人生先発完投」　……村田　兆治

アトラクション
吹奏楽演奏　……鹿児島情報高等学校　吹奏楽部
DVD「心に響く講演」視聴

●会員交流会

・義父の思い出　……日野原眞紀
・祝辞　……鹿児島市長　森　博幸
・薩摩琵琶演奏　……島津義秀
・島唄　……奄美の唄者　永井志保
・日向ひょっとこ踊り　……谷山愛笑会

今回の第11回ジャンボリーは，日野原先生が逝去された後はじめての開催となった。鹿児島支部では，そのような中にあっても「新老人の会」が元気に活動している証としてぜひとも成功させたいと支部の総力を挙げて取り組まれた。

プログラムは，十五代沈壽官氏は渡来から400年にわたる歴史を振り返りながら，韓国人と日本人の違いについてなど興味深く聴くことができた。元プロ野球投手の村田兆治氏は，離島の子ども達の野球教室に力を入れ，全国離島少年野球大会を開催されたこと。体力維持のために行っているトレーニングを舞台で披露され聴衆を引き込まれた。

アトラクションの鹿児島情報高等学校の吹奏楽は，全国吹奏楽コンクールで金賞・銀賞を獲得している実力派，100人を超える大編成で迫力ある演奏であった。

「心に響く講演」DVD の上映は，大分支部が日野原先生100歳～104歳までの４回のフォーラムを収録したものを編集して30分の DVD を制作した。これを，全国から参加の会員の皆さんとともに視聴し，ありし日の日野原先生を偲ぶことができた。

引き続いての会員交流会は，会場いっぱいに311名の参加で，鹿児島の伝統芸能のいくつかを披露され，地方色を堪能しながら，親しく交流することができた。

報告／石清水由紀子（「新老人の会」事務局長）

ヘルスボランティアの育成と活動

健康教育サービスセンター　所在地：東京都千代田区一番町29－２　一番町進興ビル１階

1　SP ボランティア

1995年度から養成が始まったLPC模擬患者ボランティア（SP）は，総計42名で男性13名，女性29名となった。年代別に見てみると高齢化は否めなく70代19名，60代17名，80代４名，90代１名，50代１名となった。（図１，２）

SP の活動は患者中心の質の高い医療を担う医師を育成するための重要なステップとして2005年度から全国108の医学部，歯学部のある大学が４年生を対象に全国共通試験（OSCE）が行われることになり，にわかに試験のツールとしての SP の要請依頼が増加し，LPC の SP 活動回数も毎年増加傾向にある。特に今年度は過去最高となり活動回数は年間94回，活動人数は延べ569名を各大学に派遣した。月別活動実績を見てみると７月は14回で述べ活動人数は110名となった。（図３）７月は医学部，看護学部から試験（OSCE）要員として一度に多いところで15名以上の要請があったことが挙げられる。SP 個人では１週間に２回も３回も違う大学へ派遣されそのたびに違う役作りを行うことは楽しみでもあり，記憶力を試される試練でもあった。

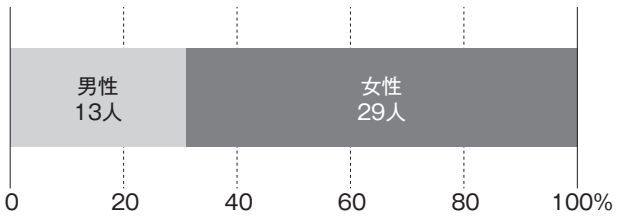


図１　SP 男女比

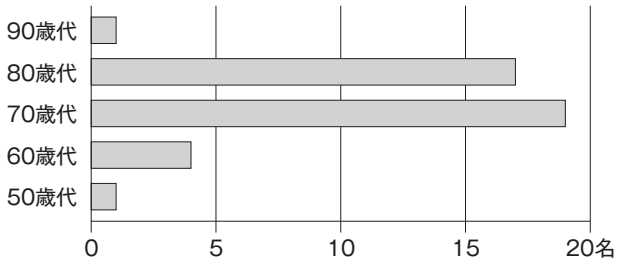


図２　SP 年代別構成

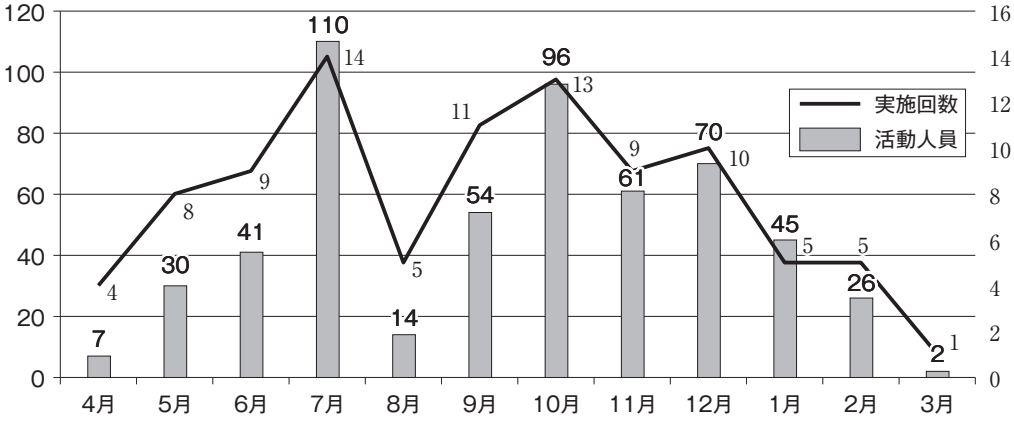


図３　2018年度月別活動回数と人員

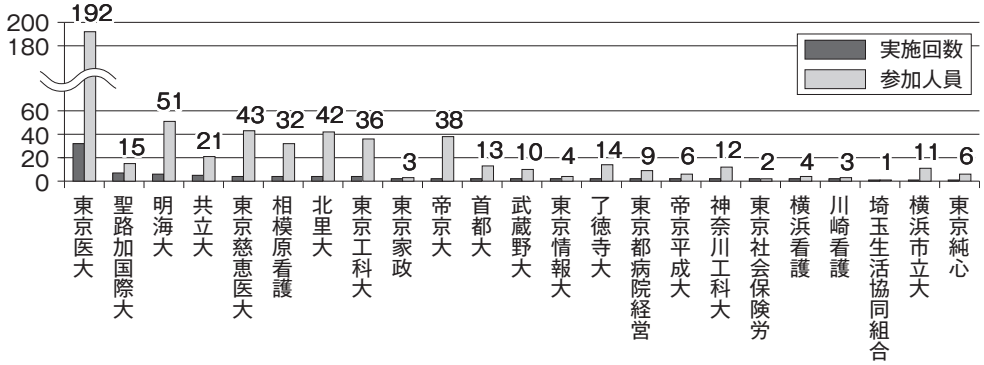


図４　学校別活動実績

写真１　看護学部での実習の様子

写真２　アザラシ型ロボットパロと模擬患者

医学部におけるSPの役割はOSCEのツールとしてだけではなく日々の医学教育へ参画することで，一般市民としての声をより医学教育に反映できSP活動の意義を深められたと感じている。特に東京医科大学医学部５年生の臨床実習にSPとの医療面接実習が組み込まれ，医学部の授業への参加が2006年度より12年間継続して実施されている。今年度は医学部１年生の早期臨床実習・症候学入門に32回，延べ192名を派遣した（図４）。また看護学部からの依頼も年々増加しており今年度は15校より依頼があり活動総数も延べ206名となった。依頼内容はコミュニケーションを中心とした実習の他，血圧測定等バイタルサインのとり方やシーツ交換等の看護技術の試験としてSPを活用する学校も増えてきている（写真１）。また老年看護学の一環として「患者体験を聞く」という授業にも参加することが多くなり，学生にとっては患者や高齢者と触れ合う良い機会となり，高齢のSPにとってはやりがいのある活動となっている。今年度も東京都病院経営本部からの依頼があり通算８年，都立病院の医師や看護師の研修へ参画し全都立病院８施設の病院での研修を行う事が出来た。その他トピックスとしては首都大学東京で研究教育用に開発されているアザラシ型ロボット「パロ」を使った認知症に関する研究に参画しことが挙げられる。（写真２）

2　SP（模擬患者ボランティア）研修

SPは学生の教育に参画していることを強く意識し，人を育てる視点と姿勢が必要である。そのために研修は必須となっている。LPCSPグループとしてメンバー間の連絡徹底や一定のSPとしての質を保持できるように研修を重ねている。毎月の定例ミーティングでロールプレイやグループワークを多く取り入れた研修を行っている（写真３）。

定例ミーティングにおける研修

定例ミーティングは毎月１回SPグループ全体で集まる唯一のミーティングである。午後１時から３時まで集中して定例ミーティングを行った。定例ミーティングは１）ロールプレイ研修，２）活動報告，３）研修，４）活動先大学講師によるレクチャー，５）事前打ち合わせなどを中心に行われている。月別研修の内容は以下の表の通りである。

表１　2018年度定例会の研修内容

４月	LPCのボランテアについて ー模擬患者としての心構え・注意事項の確認
５月	「シナリオについて」取り扱い方・読み方等
６月	「解釈モデルについて」
７月	新人デビューに向けて「フィードバックとは？」
８月	植村研一先生の講演 「模擬患者の医学看護教育における役割」
９月	新人向け「フィードバックについて」 半期を振り返って
10月	「うつ病患者を演じる時の注意点」
11月	行動科学について―明海大学シナリオから
12月	「ロールプレイ・フィードバック」研修 ―歯学部のシナリオから
１月	「ロールプレイ」研修―東京医科大学のシナリオから
２月	「各自のフィードバックを振り返って」
３月	「１年の活動を振り返って」「このグループに望むこと」

写真３　定例会でのロールプレイの様子

報告／福井みどり（健康教育サービスセンター副所長）

カウンセリング―臨床心理・ファミリー相談室

健康教育サービスセンター　所在地：東京都千代田区一番町29－２　一番町進興ビル１階

臨床心理ファミリー相談室は1996年に開設された。主な活動場所は健康教育サービスセンター内であったが，2018年12月よりカウンセリング室の確保が難しい状況となり個別カウンセリングは休止している。企業のメンタルヘルスとして聖路加レジデンスへ週半日，ケア・アカデミー葉っぱのフレディ，モレーン―コーポレーションへ職員のメンタルヘルスとして１～２カ月に１回の活動を継続している。

1　聖路加レジデンス入居者を対象としたカウンセリング

週１回３時間を聖路加レジデンス入居者のための個別カウンセリングを行っている。高齢者の成長発達課題としての自己統一や生きがい，親しい人たちとの死別，遺産をめぐる家族との確執などの相談が持ち込まれる。カウンセリングとしては幾つになっても自分らしさを大切に生きていくために肯定的な自己認識が持てるような関わりや回想法を積極的に取り入れている。希望するクライエントにはライフレビューを行っている。

2　企業におけるメンタルヘルス対策への取り組み

2006年度よりケア・アカデミー葉っぱのフレディ，モレーンコーポレーションと提携し１カ月～２カ月に１回10時から17時の枠内で職員へのメンタルヘルス対策へ参与している。自発的にカウンセリングを受けたい職員や上司の勧めでカウンセリングをうけた方がよいといわれた職員，新入職員などが対象である。継続13年目となった。新入職員の希望者には性格検査（TEG）を行い自分の性格傾向について理解を深め，実際の仕事に役立ててもらっている。また全職員には年一回総合的なメンタルヘルスチエックを行い疲労度，ストレス度，うつ度を自己評価してもらっている。心療内科，精神科医受診を希望する職員にはコンサルテーションを実施している。うつ傾向の強い職員にはSDS（うつ性自己評価尺度）を指標に継続的なフォローとコンサルテーションを行っている。その他，仕事場での人間関係の持ち方や職員の家族のメンタルな病気に対しての相談やコミュニケーションの持ち方などの相談も持ち込まれている。

3　その他日本カウンセリング学会での活動

カウンセラーが所属している日本カウンセリング学会認定カウンセラー会スーパーバイザーとして被災者カンセリング，高齢者カウンセリングについての講義や東日本大震災支援活動としての現地研修会の企画，実施，被災者の小物作りの販売支援活動を聖路加国際病院ベンジャミンホールにて年９日間開催することが出来た。

2018年度相談件数

延べ人数	82件
心理テスト	25件

報告／福井みどり（臨床心理・ファミリー相談室長）

日野原記念クリニック
教育的健康管理の実践

日野原記念クリニック　所在地：東京都港区三田３－12－12　笹川記念会館11階

1　クリニックの目指すもの

道場信孝理事長と熊谷三樹雄事務局長の新しい体制のもとで１年が経過した。新しく策定された財団の理念「一人ひとりが与えられた心身の健康をより健全に保ち，全生涯を通じて充実した人生を送ることができるように共に歩む」をクリニックで働く全員が共有し，これからも健診を含む診療を通じて実践したい。健診は予防医学を実践する場であり，受診者の健康保持と増進に役立つためには，健診後も受診者と共に歩みながら医療を実践できることが不可欠である。クリニックでは，受診者に対する健康教育とその実践を医療者がチームで支援するとの故日野原重明理事長の考えに沿って個々の受診者について生活習慣，職場と家庭の環境，人生観や性格に合わせて実現可能なプランを受診者と共に考え，実践を継続するための支援を行っている。そのためにナースは中心的な役割を果たしているが，健診は予約の受付から始まると言われるように事務職も重要な一員であり，さらに受診者の案内などを担当して頂いているボランティアの方々を含め，医師，ナース，検査技師，栄養士を含めた全職員が受診者に寄り添ったチーム医療を心がけている。当クリニックの個人受診者の反復受診率が高いのは，そのことが評価されていると考えている。今後も良心的で優れた医療を提供していることが評価され，クリニック受診者が増えることを期待したい。

2　診療体制の現状と将来方針

１）将来構想

笹川記念会館全体の将来構想が画策されており，クリニックも会館の基本方針に沿って将来プランを立てることになる。高度で良心的な医療を通じて財団の理念を実践できるクリニックを目指して，日本財団と相談しながら改装の準備を進めたい。

２）消化器内科診療体制

2018年から日本財団の支援によりオリンパスの最新機器を備えた胃内視鏡検査室が２室稼働している。前東京女子医科大学消化器科教授の光永篤医師が常勤医となり，順天堂大学医学部消化器内科から派遣されている医師ら

●新しく整備された内視鏡室

とともに上部消化管内視鏡検査が行われている。消化器科専門医として高名な光永医師が午後の専門外来も担当し，充実した消化器内科の診療が実践できている。

３）婦人科診療体制

2016年３月１日より日本大学医学部から山本範子医師を常勤として迎えることができ，さらに2018年２月に日本財団の支援を受け婦人科用超音波検査機器が更新され，質の高い婦人科診療が行えており女性の受診者が増えている。婦人科健診を含め女性受診者の要望に応えることは，クリニックの将来にとり重要であり，今後も女性受診者の増加が見込まれる。

４）乳腺外来と内分泌専門外来

前慈恵医科大学乳腺内分泌外科教授内田賢先生，現慈恵医科大乳腺内分泌外科学教授武山浩先生に乳腺外来を担当して頂いている。また，東京女子医大の高血圧・内分泌内科の山下薫医師に甲状腺を含めた内分泌内科を担当して頂いている。それらの疾患に関する健診後の精査と経過観察が可能になっている。

５）聖路加国際病院，聖路加メディローカスとの連携

クリニックは午前中に健診を主に行い，午後は健診受診者に対する結果説明と健康増進に関する相談，および一般診療とする体制に変化はない。健診後にCT，MRI，大腸内視鏡などの精査が必要な場合は，聖路加メディローカス，専門的医療が必要な場合は聖路加国際病院を主な紹介先としている。緊急時の対応は聖路加国際病院救

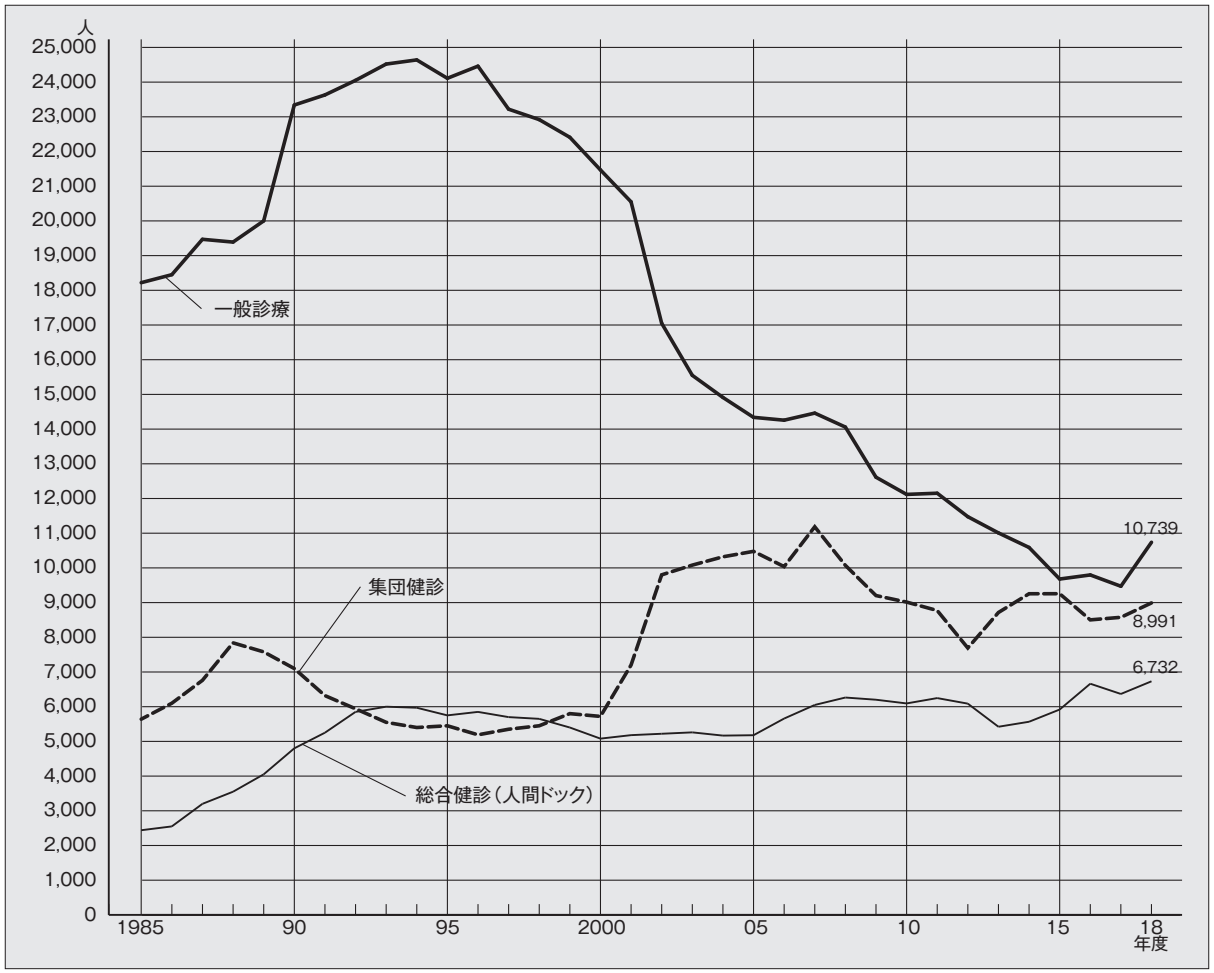


図１　受診者数の推移

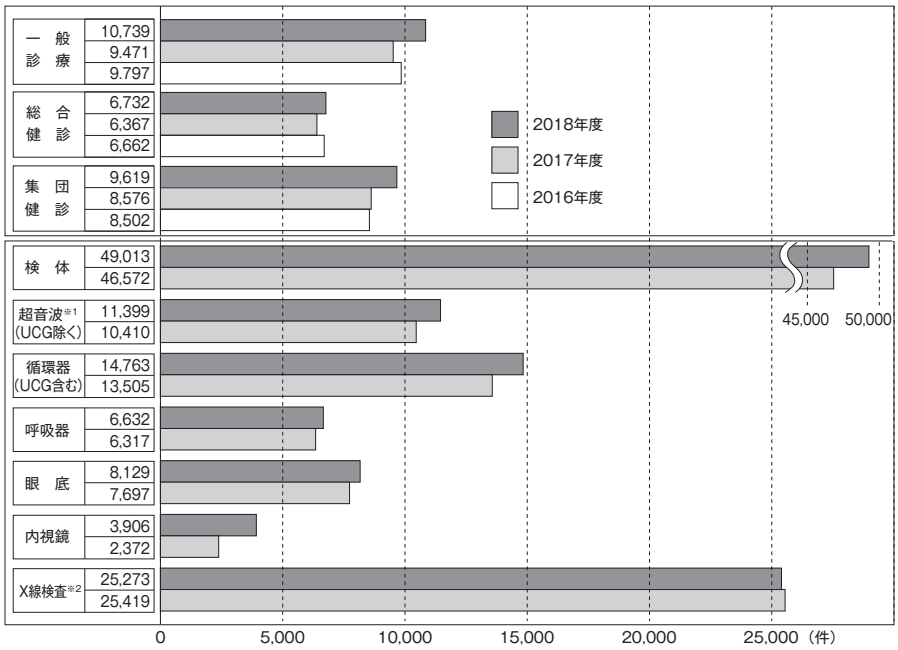
急部にお願いしているが，2018年度からアレルギー疾患の舌下免疫療法を開始しており，緊急部との連携が一層重要になっている。今後も，聖路加国際病院連携施設として信頼される医療を提供していきたい。

６）画像診断

画像診断には，前日本大学医学部放射線科教授高橋元一郎先生，聖路加ブレストセンター医師角田博子先生，前慈恵医科大学乳腺内分泌外科教授内田賢先生，現慈恵医科大乳腺内分泌外科学教授武山浩先生，および日本大学医学部と順天堂大学医学部の放射線科専門医にご協力頂いている。このような優れた方々に関与して頂けるのは，故日野原理事長の方針とクリニックの理念に共感されたこともあると思う。今後も多くの優れた方々にご協力頂けるクリニックであり続けたいと考えている。クリニックの全面改装が延期されたのに伴い画像診断機器の大幅な更新も延期になったが，必要な機器の更新は行えており，2018年４月に超音波診断装置を更新し，さらに2019年４月に日本財団の支援によりキヤノンの最新鋭エコー装置，および体格測定装置を導入し，胃透視装置２台の放射線管球を交換もできることになった。超音波検査については，外部の優秀な超音波検査技師に指導を受け，心臓と頸動脈超音波検査が実施できるようになった。今後も日本財団と相談しながら，クリニックの将来展望を見据えた画像診断機器の充実をしていきたい。

3　診療の概要

受診者数の推移を図１・図２に示した。午後の外来受診者数は10,729名で前年度より1,268名増加した。健診受診者数が増えたこと，および山本医師の婦人科外来，光永医師による消化器内科，および山下医師を受診する内分泌外来受診者が増えているためである。当クリニックは一般開業医のように地域密着型の医療施設ではないが，健診後の精査と経過観察を含めて質の高い専門外来と一般内科外来により受診者の健康管理に役立つことを目指したい。



参考
（超音波検査前年比内分け：
上腹部＋607，乳房＋69，
婦人科＋254，甲状腺＋132）
参考
（X線検査前年比内分け：
胸部＋525，胃部－1,059，骨量＋117，
マンモ＋272）

図 2　2018年度来所者数・検査件数（前年比較）

表 1　検体検査

項目／年度	血液検査	尿	便	細胞診	細菌・その他	合計（件）
2018	17,499	15,911	10,906	4,697	0	49,013
2017	16,455	15,434	10,383	4,300	0	46,572

表 2　循環器機能検査

項目／年度	ECG		その他（UCG 含まず）	合計（件）
	安　静　時	24時間モニター		
2018	14,545	72	15	14,632
2017	13,457	38	10	13,505

表 3　超音波検査

項目／年度	上腹部	乳房	婦人科	甲状腺	心エコー（UCG）	頸動脈	合計（件）
2018	7,749	2,617	821	285	131	70	11,600
2017	7,142	2,548	567	153	0	0	10,410

表 4　レントゲン検査

項目／年度	胸部	胃部	乳房	骨量測定	その他	合計（件）
2018	15,627	5,509	3,196	941	0	25,273
2017	15,103	6,568	2,924	824	0	25,419

表 5　呼吸器機能検査

項目／年度	｛ルーティン 予測肺活量 一秒率｝＋ FV 曲線
2018	6,632
2017	6,317

表 6　子宮頸部がん細胞診（ベセスダ分類）

異形度／年度	NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	adenocarcinoma	合計（件）
2018	4,124	51	3	25	6	3	2	0	1	4,218
2017	3,709	65	6	23	9	0	4	0	0	3,816

表 7　子宮体部がん細胞診（クラス分類）

異形度／年度	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	Ⅴ	合計（件）
2018	113	21	1	0	0	0	0	135
2017	54	23	0	0	0	0	0	77

4　各種検査数の推移

検体検査，腹部超音波，心臓超音波，呼吸器，眼底，内視鏡，X線検査の推移を表1～7に示した。いずれも，健診者数の増加に伴い前年度より増えた。

5　婦人科健診（子宮頸部がん細胞診〈PAP 検査〉，子宮体部がん細胞診）

2018年度，子宮頸部がん細胞診を希望して行った件数は，総合健診（人間ドック）で1,793件（前年比＋199），健診2,380件（＋190），一般診療45件であった。健診者のうち港区健診が687件（＋46）であった。

子宮頸部細胞診判定の内訳は表1のとおりである。ASC-US 以上の細胞異常がみられた場合は基本的には精密検査のため専門病院へ紹介とした。

子宮体部がん検査（ホルモン補充療法時のチェックを含む）は全体で135件，細胞診判定の内訳は表2のとおりである。

子宮頸部がん細胞診のドックでの件数は昨年とほぼ同数であるが，健診での件数はここ数年増加傾向が続いている。

また子宮体部がん検査については昨年度の2倍以上の件数となっている。

常勤医の存在，また2017年12月には新しい経腟エコー機器も導入したことにより，精度の高いエコー検査を受けやすくなり，一般外来者（特に定期受診者）が増加している。

6　総合健診（人間ドック）

1）総合健診の年代別受診者数（表8）

表8は2018年度の総合健診（人間ドック）の年代別受診者の一覧である。

2）総合健診・結果伝達状況

ドックの結果伝達については，受診者の希望により，3通りから選択することが可能である。第1は受診当日に，一部（甲状腺ホルモン検査，ヘリコバクターピロリー検査，喀痰検査，乳房レントゲン検査，乳房エコー検査，子宮頸部，体部細胞診など）を除く項目の結果説明を12時30分から行っている。デジタル画像を受診者に見せながら，問診情報を参考にして医師から結果説明がなされ，結果に問題のある場合は専門医へ紹介し，治療や更なる精密検査の実施など早急な対応が可能となる。

第2は，結果表は診察医が判定し，郵送した後に受診して結果の説明を受けるパターンで当センターに主治医

表8　総合健診の年代別受診者数

年齢区分	男　性	女　性	合　計
29歳以下	36名（ 0.9%）	28名（ 1.0%）	64名（ 1.0%）
30～39歳	463　（11.5　）	312　（11.6　）	775　（11.5　）
40～49歳	1,348　（33.4　）	959　（35.5　）	2,307　（34.3　）
50～59歳	1,214　（30.1　）	772　（28.6　）	1,986　（29.5　）
60～69歳	692　（17.1　）	414　（15.3　）	1,106　（16.4　）
70～79歳	217　（ 5.4　）	172　（ 6.4　）	389　（ 5.8　）
80歳以上	61　（ 1.5　）	44　（ 1.6　）	105　（ 1.6　）
合計	4,031名	2,701名	6,732名

表9　総合健診の異常発見率（上位10項目）

性・数	順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
男性	病名	肥満	肝機能検査異常	高中性脂肪血症	高尿酸血症	糖代謝異常	高血圧	聴力異常	血液疾患（貧血含む）	尿潜血	肺機能疾患
4,031名	発見率（%）	53.0	40.7	25.9	23.8	13.7	13.0	12.6	12.1	10.4	8.0
女性	病名	尿潜血	尿中白血球増	肥満	肝機能異常	血液疾患（貧血含む）	高中性脂肪血症	聴力異常	高血圧	糖代謝異常	肺機能疾患
2,701名	発見率（%）	20.9	20.4	15.4	15.6	14.1	8.2	7.0	6.8	6.2	5.1

表10　総合健診（レントゲン検査）で発見された消化器疾患
（ドック：男性1,610名，女性833名）

	食道		胃		十二指腸	
	男	女	男	女	男	女
潰瘍	0	0	5	0	9	1
潰瘍の疑い	0	0	0	0	0	0
ポリープ	9	6	330	274	20	9
ポリープの疑い	1	1	6	2	5	0
粘膜下腫瘍	1	0	12	15	1	1
粘膜下腫瘍の疑い	1	0	5	7	1	1
胃炎，びらん	1	2	216	72	8	1
潰瘍瘢痕	0	0	5	0	9	1
合計	13	8	579	370	53	14

を持つ場合，処方なども含め結果の説明を行う。対面式での結果説明は受診者がその場で，質問や，不明点の確認をすることができ，また問題点への対応が早急に出来る利点がある。

第３は，判定医が最終確認を行った後に結果表を郵送する方法である。この場合は書面のみでの説明となる。後日電話での問い合わせや，改めて問題点に対して受診されるケースもある。

いずれの方法でも，オプションを含め検査結果がすべてそろった段階で，医師が最終チェックを行い，結果表が郵送または手渡しされる。総合健診（健保組合，事業所との契約によるもの）および，人間ドック（個人で受けるもの）受診者総数6,732名の内，3,232名（48%）の方が当日に結果説明を受けた。

３）総合健診の異常発見率

総合健診の判定結果から異常発見率の高い病態を**表９**に順に列挙する。

また，総合健診のレントゲン検査で発見された消化器疾患は**表10**の通りである。

7　集団の健康管理

１）上部消化管内視鏡検査

上部消化管内視鏡検査は，総合健診のオプションや一般診療での経過観察，総合健診や一般健診の上部消化管造影検査での所見のあるケースの精密検査として行っている。

高精密な検査希望や高齢者の上部消化管造影検査によるバリウム誤嚥や転落事故防止，若年者のＸ線被曝防止，ヘリコバクター・ピロリ菌除菌希望者の増大などの理由により検査希望者は年々増加傾向にあり，2017年度の検査数は2,372件だった。そこで，2018年２月に内視鏡検査室を２室に増設，同年３月より常勤の消化器専門医を迎え上部消化管内視鏡検査を２列としたことで検査予約枠が増大し検査希望者を受け入れやすくなり，状況によっては当日に検査を追加することも可能となった。また，午後は一般診療での検査を開始したことで１日20例以上の検査を行っている。今年度からは港区健診による上部消化管造影検査内視鏡検査も受け入れ開始となり，2,963例で昨年度と比べ1.67倍の増加だった。

上部消化管内視鏡検査所見内訳は**表11**，組織検査診断結果は**表12**の通りである。検査所見や病理診断により消化器専門医によりフォローアップが実施されている。GroupⅣ，Ⅴの所見者は７名で，うち２名は食道がん，４名は胃がん，１名は食道・胃がんの診断で他院へ紹介となった。

表11　上部消化管内視鏡検査所見内訳（被験者2,963名）

所　　見	例数
異常なし	544
逆流性食道炎	959
食道裂孔ヘルニア	840
バレット食道	84
食道裂孔ヘルニア	840
萎縮性胃炎	793
胃粘膜萎縮（HP 除菌後）	852
潰瘍および潰瘍瘢痕	347
食道がん	2
胃がん	4
食道・胃がん	1

表12　組織検査診断結果

異型度	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	判定不能	検査数
例数	187	1	1	2	5	1	197

表13　腹部超音波検査結果

疾患名	男女
肝血管腫	246
肝のう胞	2,215
脂肪肝	2,154
胆石	331
膵のう胞	246
腎石灰化	2,241
腎のう胞	1,541
合計	8,974

表14　集団の健康管理（下記について継続的な健康管理を行っている）

	団　体　名	実施人数（名）	内　　容	担当医師名
1	モーターボート選手，実務者関係	628	登録更新検査　実務者健診	久代　赤嶺　長田　他

2）総合健診（ドック）および健診で発見された悪性腫瘍

食道癌２例，胃癌４例，乳癌20例，肺癌３例，甲状腺癌１名，膵臓癌１名腎臓癌２名，前立腺癌２名，大腸癌５名，子宮頚部癌３名，子宮体部癌１名であった。これらは紹介先医療機関からの返答書で確認されたケースである。乳癌については，20名の内10名が初回受診者で経年受診者が７名，３名が乳腺検査は経年ではなく，２～３年前が最後の検査であった。検査の媒体はMMGのみの受診者から11名，MMGと乳エコー検査の両方を受けた受診者から６名，乳エコー検査のみの受診者から３名であった。年齢分布は30代１名，40代８名，50代３名，60代４名，70代２名，80代２名であった。

3）腹部超音波検査結果

表13の通りである。

4）総合健診（人間ドック）以外の集団健診

継続的に健康管理を行っている団体は表14の通りである。

8　健康管理担当者セミナー

日　時　2018年11月８日（木）
会　場　笹川記念会館４階会議室
参加者　38団体　47名
内　容　人間ドックや健康診断の受診先団体の担当者を中心に，最近の医療トピックスなどを中心とした医療セミナーを開催。本年で第39回目を数えた。クリニック久代所長の挨拶のあと二題の講演を行った。

テーマと講師および講演要旨

講演・１　みんなが知りたい内視鏡の話

光永　　篤（日野原記念クリニック副所長）

内視鏡検査は，消化管のがんの大きさが１～２ミリのものでも診断ができるようになったが，検査に伴う苦痛は個人差が大きく嫌悪感を訴える方も多い。嘔吐反射の強い方は経鼻内視鏡を希望されれば，経口に比べ嘔吐反射が少なく検査することができる。

経鼻内視鏡は細いため経口内視鏡に比べ画像が悪く診断能に劣るとされた時期もあったが機器の進歩により現在はそん色のない検査が可能となった。

●光永クリニック副所長・久代クリニック所長

胃の粘膜に生息するピロリ菌は子供のころに感染し，除菌しない限り棲みつづけ胃の粘膜をあらして胃潰瘍や十二指腸潰瘍，がんなどの病を発症するといわれている。

また，除菌により胃がんの発生は抑えられるが，発生率がゼロにはならない。

そのため年に一回の胃の内視鏡検査を実施することが大事と健診の重要性を説いた。

また，ピロリ菌感染率は年々減少しているが，一方で近年，逆流性食道炎の有病率は増加の一途をたどっている。これは欧米化する日本人の食生活（高脂質，高たんぱく食化）の変化や高齢化（食後から就寝までの時間が短くなりがち）も大きな要因。

逆流性食道炎の予防は，食べてすぐに横にならない，寝しなにものを食べない。辛い物，酸っぱい物を取りすぎないことが大切であると自己管理の大切さを説き話を終えた。

講演・２　総合診療ってご存じですか

有岡　宏子（聖路加国際病院一般内科部長）

総合診療では，主訴から診断に至るそのプロセスを得

意とする。

欧米では体調が悪いとき，大きな病院にかかるのではなく，GP（general practitioner）のもとを訪れるという医療システムとなっている。

GPでは，特定の領域にこだわることなく，基本的なヘルスケア（検診やワクチンなどを含む）を提供し，疾病や外傷など，さまざまな状況に応じて診断や治療を行う。

しかし，日本における総合診療科の現状は，地域や施設ごとに立ち位置や役割が異なるということが大きな特徴であり，都会の周辺のように多くの医療機関が集まる地域と，地方の医療機関の少ない地域ではその役割は自ずと異なる。総合診療科は初診の患者や診断のつかない訴え，複数の疾病を有する患者の受け皿となる。

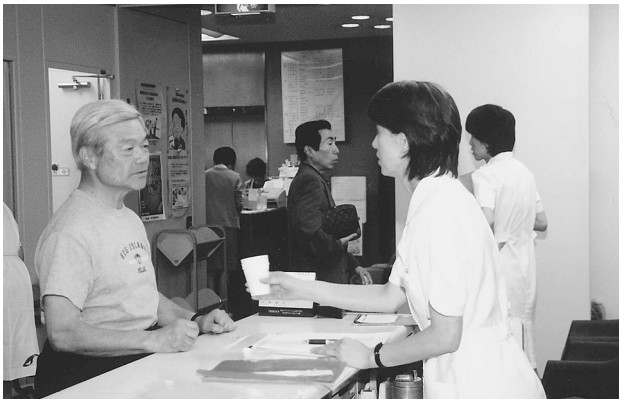
また，施設の規模やさまざまな特徴によっても役割や立ち位置は異なる。

聖路加国際病院の場合には，初診の患者への診断，専門科での治療の必要がない疾患のマネジメント，高齢者の特徴を踏まえた診療，EBMやそれらに基づいたガイドラインを適応しにくい場合の調整，患者や家族の希望や現状に合わせたゴール設定などがあげられる。

総合診療の領域というのは，専門科の合間を埋めながら，どんなかたちにでも柔軟に変形する。そうすることで今，日本の医療が大切にしている全人的な医療を実現し，一人ひとりが理想的な最期を迎えるための医療を支えていくことができる。そんな医療の理想がたくさんつまっていると語り話を終えた。

9 クリニックにおける総合健診（人間ドック）の特徴と看護師の役割

当クリニックでは，これまで予防的・教育的医療の見地から，総合健診（人間ドック），生活習慣病健診，一般外来診療において疾病予防のための教育や成人の慢性疾患の継続管理を推進してきた。当クリニックの総合健診は，リピーターが多く，開設以来30年以上にわたって受診されている方も少なくない。当クリニックの総合健診の特徴は，検査のみに留まらず，身体的，心理的，社会的など，包括的に問題点が抽出され，その問題点に対して個別性を重視した方針が立てられる点である。その問題点を把握するために，検査を進めていく中で看護師が個別に問診を行う。限られた時間で受診者の記載した問診票をもとにインタビューを行うが，その目的は，がんや生活習慣病などの早期発見およびその予防に必要な指導を



行うための情報や，検査データに現れにくい症状などの健康問題を把握することにある。また，受診者の持つ問題が看護師との問診過程で整理され，受診者は自分の問題に気づき理解する事ができる。初診で受診される方に対しては過去のデータなどの確認をして，解決されていない問題点などに結びつく生活習慣などの情報収集を行う。精密検査の指示となった事柄の動向の確認なども行い，放置や解決されてない問題については，問診時に整理し，その時点で適切な検査への変更や追加を行う。例えば，前年度の受診で検査データから除菌治療が指示されていて放置されたケースには，胃レントゲン検査から胃内視鏡への変更や除菌薬の処方などを行う。婦人科疾患においても，子宮筋腫や卵巣嚢腫，症状などにより，婦人科エコー検査やその他の検査を追加することもある。問診時に家族歴や年齢を加味した検査のオプションも勧めている。オプション検査項目の枠も年々拡大し，適切なオプション検査が，看護師の問診や診察時などに追加され，個別性のあるオプションメニューを受診者に提供できるようになっている。オプション検査として睡眠時無呼吸症候群（OSA）について日本睡眠協会との連携を得て睡眠障害の在宅スクリーニング検査を行いOSAの重症度の診断が可能となり，その結果により治療の必要性が生じれば専門病院へ紹介している。今後，アレルギー検査などもオプション検査として実施が可能となった。医師の診察時には，すでに収集されている問診情報をもとに更に詳細なアプローチを行い，限られた診察時間を有効に使用することが可能となっている。総合健診（ドック）の結果の説明は受診当日に聞くことができる。結果の判定は単なる健康診査ではなく，得られたすべての情報（問診情報や検査データ）をもとに個別性を重視した問題解決型の総合評価であり，その中には，生活習慣の変容や治療，将来の見通しについての見解も加えられる。

医師の結果説明の後に，原則として問診した看護師が再度面接を行い，重要な問題点を整理して，受診者の問

題の理解，また解決方法などについて確認を行う。具体的には，再検査や精密検査の説明と実施のプラン，緊急な問題への迅速な対応，（問題点に応じた専門医への受診や他の医療機関への紹介）について看護師がコーデイネートする。その他，禁煙外来への動機づけ，食習慣改善のための栄養相談（管理栄養士による専門的な指導）運動の実施，心理的カウンセリングなどについても必要に応じてアドバイスする。

総合健診受診後の再検査や生活習慣変容後のフォローアップ検査も実施し，継続的に管理している。

総合健診の結果で専門医受診が必要となったケースに関しては，クリニックで問題点に応じて専門医を受診することができ，病態の評価，生活習慣の変容も含めて，継続的に受診者として治療を受ける事が可能である。その場合も問診した看護師がプライマリーに関わることで治療効果をあげている。

受診者の診療録にはすべての健康情報，問診情報，検査データ，治療経過，受診者自身で測定した情報（血圧，体重など），紹介した医療機関の返答書などがファイルされている。そのため長期に渡る受診者の経過を把握することができる。それがプライマリーケアーを可能とし，リピーターが多い理由の一つにもなっていると思われる。これは，他の健診センターにはない当クリニックの総合健診の特徴である。

問診は看護師が従来行ってきた検査のみにとどまらず包括的に問題点を抽出するために必要不可欠である。正確な情報，個別性を重視した方針が立てられるために医師の診察の前に，診療録（カルテ）を参考にOCR（受診者が記載した問診票）の治療中，及び経過観察中の疾患，また服用している薬などについても確認し不足部分の補足を行い，医師の診察時の情報としている。また，システムに問診情報の入力を行うことにより，前年に入力した情報を閲覧でき，問診に要する時間を短縮する事ができている。

婦人科一般診療も，癌検診，疾病の診療，ホルモン補充療法など多岐に対応出来る状況となっている。

10 情報管理

1）健診システムの安定運用

健診システム（TOHMAS-i Eterno）の稼働状況，業務運用も定常化しており，その安定運用に努めた。

クリニック内の運用業務においては，各部署と連携し，日次・月次・年次作業および随時業務作業（各種帳票出力，結果データ抽出，請求データや統計データの抽出など）を行った。この業務作業内にも不具合や改善点が発生したが，事象の確認，調査を行い，ベンダーと連携して，都度のデータ修正，ロジックやプログラムの改修などにより対処した。

また，平成30年度からの特定健診，特定保健指導の制度改正に伴う，協会けんぽ・東振協等のデータ抽出機能変更をベンダーと連携して対処し，業務作業を行なった。

レイアウト変更後の胃部内視鏡機器も問題なく稼働しており，胃部内視鏡ファイリングシステムとの所見連携機能の安定運用に努めた。

健診システムに連携した各種システム（臨床検査（血液），眼底・画像）については，システム不具合や機器トラブルに対しても，ベンダーと連携し，障害対処を含めて安定運用に努めた。また，新規に機器や検査項目の連携が発生した場合も，その環境設定，確認作業および安定運用を行った。

これらシステムに対する各部署からの要請に柔軟に対応し，実作業者の利便性を図った。

2）特定保健指導プログラムの安定運用

特定保健指導プログラム（ヘルスコンシェルジュ）の安定運用に努めた。

健診システムとデータ連携し，健康保険組合への結果／請求出力を効率的に行った。

3）社内インフラ・ITインフラ整備

パソコンや周辺機器の経年変化や老朽化に伴う，動作不良，起動不具合などに対して，機器メンテナンス，代替機の準備，新規パソコンの導入やそれらの初期設定（OS，Office，メール，ウィルスチェックなど）や機器のリプレースを行った。

インターネットパソコンで使用しているWindows 7

のサポート期間が2020年１月14日で終了となり，Windows10へのグレードアップが必要となったため，パソコンの内蔵ディスクをSSDに置換することにより，スムーズなアップグレードが行なえた。

インターネットや院内ネットワークでUTMの使用や，パソコンのアンチウィルスソフトによりセキュリティ対策を行った。

また，各部署からのIT関連のヘルプデスク対応を行った。

11　食事栄養相談

１）相談人数と相談内容

2018年度食事栄養相談人数は延べ313名であった。

総合健診（人間ドック）の当日結果説明において，医師より栄養相談の指示があった受診者にはその場で受けられる体制にしており，当日都合がつかない場合は予約をとり，後日相談を受けていただくようにしている。

一般健診においても，生活習慣に問題点があれば栄養相談の案内がされる。

基本的には医師の指示のもと，最初の面接で改善目標をたて，１～３ヵ月後に再検査を実施する。２回目以降の面接で検査結果の改善を確認している。

一般診療でも慢性疾患の相談を継続して行っている。

２）病態別栄養相談の割合

特定健診を含め，相談内容の割合は，減量41％，脂質代謝異常16％，高血圧21％，糖代謝異常８％ 肝機能異常６％，高尿酸血症７％，その他１％であった。

３）年代別栄養相談

20歳代１％，30歳代１％，40歳代36％，50歳代27％，60歳代27％，70歳代以上が７％であった。

４）特定健診・特定保健指導

健康保険組合19団体と契約し，実施している。18年度からは第３期特定保健指導の実施にあわせ，保健指導の期間を６か月から３か月に変更する健保が19団体のうち，５団体あった。

2017年度（2017年４月～2018年の３月の間に開始，終了した特定保健指導）の実績について**表15・16**下記の様な結果であった。

実施のべ人数は32名（積極的支援18名，動機づけ支援14名）。

32名の人数分布は（**図３**）に示す通りである。

体重・腹囲とも積極的支援のほうが１％以上減少した割合が75％を超えており，動機づけ支援の50～10％に比べてより効果的であったことがわかる。

５）はらすまダイエット

13年度からの取り組みとして，某企業のシステム（はらすまダイエット）を導入している。

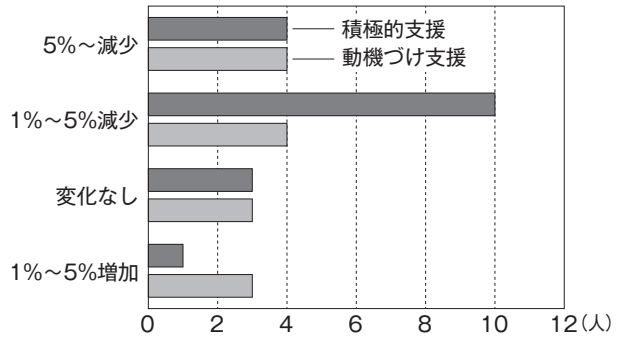
今年度の実施者は１名であった。今後は周知方法を検討して実施者を増やしていく予定。

表15　体重変化

体重変化幅	積極的支援（18名）	動機づけ支援（14名）
５％～減少	4（22%）	4（29%）
１％～５％減少	10（55%）	4（29%）
変化なし	3（17%）	3（21%）
１％～５％増加	1（ 6%）	3（21%）
５％～増加	0	0

表16　腹囲変化

腹囲変化幅	積極的支援（18名）	動機づけ支援（14名）
５％～減少	2（11%）	1（ 7%）
１％～５％減少	9（50%）	5（36%）
変化なし	4（22%）	4（28%）
１％～５％増加	3（17%）	4（29%）
５％～増加	0	0



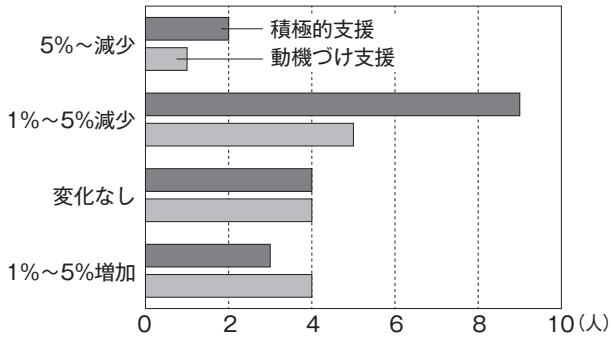


図３　2017年度特定保健指導改善例

12 学会等参加活動

- ４月13日　小池幸子・立花三和
  戸塚超音波検査レクチャー
  スクリーニングでも知っておきたい胆嚢隆起性病変
- ４月14日　小池幸子
  日本画像医療システム工業会
  2018国際医用画像総合展
- ４月22日　河辺ひろみ
  アスリード株式会社
  腹部エコー初級者集中スクール　１日コース
- ４月27日　名和真紀子
  東京超音波研究会
  これから始める消化管超音波検査の超・基本講座
- ５月12日　竹中聖子
  第80回消化器内視鏡技師学会
- ６月９日　松村直愛
  アスリード株式会社
  頸動脈エコー初級スクール
- ６月24日　河辺ひろみ
  超音波検査法フォーラム
  腹部エコー実技スクール 初心者コース
- ６月29日　小池幸子・立花三和
  超音波検査法フォーラム
  プロをめざすスキャニング・テクニック
  「腹部スクリーニングの基本と応用」
  「スキャニングの大切さを教えてくれた症例」
- ７月５日　立花三和・河辺ひろみ・松村直愛
  超音波検査法フォーラム
  知っておきたい超音波所見
- ８月12日　手塚由紀
  マンモグラフィ技術試験
- ８月23日　小池幸子
  超音波検査法フォーラム
  知っていますか心エコー 心機能評価のここんとこ
- 10月27－28日　小池幸子・名和真紀子
  日本超音波医学会
  第30回関東甲信越地方会学術集会
- 10月31日　小池幸子・立花三和
  東京超音波研究会
  ルーチンから急性腹症　私の検査の進め方
- 11月10日　立花三和
  アスリード株式会社
  頸動脈エコー初級スクール
- 11月17日　小池幸子
  東京乳腺研究会
  「症例検討」
- 11月30日　小池幸子・立花三和・那須美智子
  戸塚超音波検査レクチャー
  腹部エコーに活かす
  「ドプラ法の使いこなし・性能と限界」
  「ドプラ法で得られる診断情報」
- 12月15日　小池幸子・立花三和・那須美智子
  超音波スクリーニングネットワーク
  超音波スクリーニング研究講習会
- １月19日　竹中聖子
  オリンパス株式会社
  消化器内視鏡スコープの洗浄・消毒
- ２月１－２日　三井英巳・関口将司
  日本総合健診医学会 第47回大会
- ２月20日　吉田洋子
  東京 GE マンモグラフィ ミーティング
- ２月28日　小池幸子
  超音波検査法フォーラム
  知っていますか心エコー　弁膜症のここんとこ
- ３月10日　小池幸子・那須美智子
  アスリード株式会社
  乳房超音波検査を学ぼう　アドバンス編
  「さらに踏みこんだ乳房超音波の世界へようこそ」
- ３月17日　小池幸子・立花三和・名和真紀子・
  河辺ひろみ
  超音波検査法フォーラム
  US・CT・MRI の検査方法と診断

報告／久代登志男（日野原記念クリニック所長）

日野原記念ピースハウス病院

所在地：神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000－1

ピースハウス病院は神川県足柄上郡中井町にある本邦初の独立型ホスピス，緩和ケア単科病院である。故日野原重明先生の一念発起を受け，数年にわたる募金や土地探しなどの準備期間を経て，財団設立20周年の1993年に開設された。爾来，緩和ケアの普及に一役買うとともに約4,000名の方々に緩和ケアを提供してきたが，諸事情により2015年５月に一旦休院するに至った。しかし，多方面からの励ましと要望，財団内外の多数の方々の努力により，2016年４月に日野原記念ピースハウス病院と改称して活動を再開することが可能となった。それから３年，倒れることなく，限られた人材により，標準的な知識や技術，薬などを利用して，過不足のないケアを提供する活動を続けている。

1　診療活動

院長と医師１名が常勤として診療を担当している。週末や祝日には，聖路加国際病院や北里大学病院などの緩和ケア関係医師の支援を受けている。

2018年４月から2019年３月までの１年間に，男性131名（延べ134名），女性104名（延べ107名），合計235名（延べ241名）が入院した。そのうち219名を年度内に看取った。平均年齢74歳，平均在院日数26.3日であった。悪性腫瘍の原発部位としては肺癌が最も多く約29％であり，食道から直腸に至るまでの消化管と肝胆膵を合わせた消化器系は約40％であった。患者住所は，湘南西部と県西部とで合わせて約89％を占めており，当院が地域に根差したものとなっていることを示している。

報告／西立野研二（日野原記念ピースハウス病院院長）

2　看護部の活動

1）看護部が大切にしていること

日ごろより，「ピースハウスはやすらぎの家である。ここで時をともにする人は皆それぞれの生き方を尊重する」という当院の理念に基づき，ケアを提供する専門職として，ピースハウスで出逢う全ての方をかけがえのない人として尊重し，「伝え合う・学び合う・支え合う・認め合う・喜び合う」をスローガンに，患者・家族の皆様だけではなく，一緒に働くみんな，すべての人にやさしい看護を目指している。

また，本年３月に診療報酬が改定され，緩和ケア病棟でさえも在院日数が問われるようになり，入院相談に来院される方々からは，一般病棟からも緩和ケア病棟からも退院を迫られるという声を伺うことも少なくない。これからも当院では，患者・家族の揺れる想いを大切にし

入院状況（2018.4.1～2019.3.31）

入院患者数（名）		延入院患者数（名）
男性	131	134
女性	104	107
合計	235	241

平均年齢
74歳（入院時）

原発部位　（重複例あり）

部位	件	部位	件
肺	71	前立腺	7
大腸	28	腎・尿管	6
胃	25	肝	6
膵	19	子宮	6
頭頸部	17	卵巣	3
胆のう	12	リンパ	2
乳	9	脳	2
膀胱	8	その他	14
食道	8	合計	243

転帰	
死亡	219
転院	1
在宅	7
在院	14
合計	241

平均在院日数
26.3日

患者住所

湘南西部			県西部			その他		
秦野市	46(名)	19.6(%)	小田原市	41(名)	17.4(%)	県内その他	18(名)	7.7(%)
平塚市	27	11.5	南足柄市	19	8.1	神奈川県合計	228	97.0
中郡	47	20.0	足柄上郡	17	7.2	東京都	5	2.1
伊勢原市	5	2.1	足柄下郡	8	3.4	その他	2	0.9
小計	125	53.2	小計	85	36.1	合　計	235	

ながら，患者・家族が希望する場所で，安心して療養することができるような支援を強化していきたい。

2）患者さんとご家族のニードに応えるための，チームケアの中での看護師の役割

24時間患者さんに一番近い存在として，苦痛症状が緩和されるように五感を使った観察を心がけ，薬物療法が効果的に行われるように医師，薬剤師への情報提供と改善状態の評価を行っている。また，人生の中で大切にしていたことや希望を尊重し，心地よく日常生活が送れるように支援することに尽力している。看護の原点である，生命力の消耗を最小限にしつつ，患者・家族に備わっている持てる力を十分に引き出し，残された時間をその人らしく生きるお手伝いを，過不足なくできる専門家でありたいとスタッフ一同頑張っていきたい。

3）看護部体制と病床稼働状況（2018年３月末現在）

1）看護師長：１名・副看護師長：１名・看護主任：１名・看護師17名・看護補助者：４名（常勤換算2.5名）で，７対１の看護配置を遵守している。
日勤（８：30～17：30）看護師（師長を除く）6.5名＋看護補助者1.5名
夜勤（16：30～翌９：30）看護師２名

2）2018年度平均在院患者数17.5人／日・平均稼働率79.6％・平均在院日数26.3日

4）看護部年間目標

1）看護業務の改善を図り，患者・家族・職員が専門的緩和ケアを提供できる職場環境が構築できる
2）社会情勢・医療情勢を認識し，ホスピス・緩和ケアの普及活動に参画できる
3）安全・安心な看護を保証し，丁寧なケアが維持できる

5）看護部年間活動

【業務係】
1）日野原記念ピースハウス病院看護手順作成
2）診療部と協働し，与薬業務全般の各種伝票・指示表などの改訂
3）入院生活のしおりを作成し入院案内を充実

【記録係】
1）記録用紙の名称統一・経過観察表の改訂・ADL表の改訂と記録マニュアルの整備
2）看護記録監査表に基づき，記録類の監査実施
3）フォーカスチャーティング記録，改善のための勉強会実施

【物品係】
1）定数管理システムを構築し，注文数・納品数・在庫数の適正管理
2）紛失備品の予防に向けて看護備品管理体制の強化
3）新規購入した医療機器やベッド関連備品の適正使用に関する指導・教育
4）処置準備室の整備及び動線を考慮した環境調整

【他職種連携係】
1）朝の申し送り方法についての検討
2）診療部との薬剤管理についての業務改善

【在宅支援推進係】
1）在宅社会資源・近隣の訪問看護ステーション・移送業者一覧ファイル作成
2）退院支援マニュアル整備・退院支援フローチャート・在宅療養支援シート改訂
3）中井町地域で市民講座開催・居宅介護施設見学

【がん性疼痛看護向上係】
1）疼痛アセスメント用紙改訂・緩和ケアマニュアル作成
2）がん性疼痛看護に関する勉強会実施

【口腔ケア係】
1）口腔ケアアセスメントシートの改訂
2）口腔ケアに関する勉強会実施

【スキンケア係】
1）褥瘡発生状況の評価及び分析プランの改訂
2）褥瘡ケアに関する勉強会実施

【接遇改善係】
1）アンガーマネジメントに関する職員研修会実施
2）５Ｓ活動の推進
3）接遇チェックリストの作成と運用

6）2018年度の活動評価及び今後の課題

(1) **目標１**：平均在院患者数17.5人／日（昨年実績16.6人／日）・平均稼働率79.6％（昨年実績75.4％／日）・平均在院日数26.3日と，いずれも増加している。また，迅速で柔軟な入院相談，入院待機期間の短縮，在宅療養中の患者さんの緊急受け入れ等，利用したいときに利用しやすい病床運営に職員全員が協力できる環境が構築できた。

2018年度３名の入職者があったが，教育体制を充実

したことで離職者もなく，やりがいをもって，緩和ケアに従事できている。

⑵　**目標２**：人口動態や医療情勢の変化，「在宅看取り」が推進されている過渡期であり，今後ますます在宅療養のがん患者が利用しやすい緩和ケア病棟を創造していく必要性を認識している。訪問看護ステーション中井や，在宅支援診療所・居宅介護支援事業所と，さらなる連携の強化を図っていくことが重要である。患者さん，ご家族が希望する場所で安心して療養できるよう，一般市民向けのアドバンス・ケア・プランニングの普及活動を定期的に行っていくことが課題である。

⑶　**目標３**：年間のインシデント・アクシデント報告は141件であった。転倒・転落は，低床ベッドの導入や予防対策の強化により，46件（32.6%）と大幅な減少に繋がった。しかし，５時～８時台早朝時の転倒・転落が50%以上の割合を占める。また，夜勤帯での看取りが全239件のうち，167件（約70%）を占めており，夜間の看護体制の検討が課題である。

報告／桐ヶ谷政美（日野原記念ピースハウス病院看護師長）

3　ボランティア活動

2018年４月に継続登録をしたピースハウスボランティアは75名，前年４月１日対比で14%増となり曜日別の人員にばらつきがあるものの活動に余裕が出てきた。一方，ピースハウス病院は引き続き少数精鋭の下，ほぼ年度計画通りの平均在院患者数を維持達成したために多忙を極め，ボランティア活動に対する期待は従来以上の高まりを見せた。

１）活動内容の概要

ボランティア数の増加に伴い曜日別の活動人員にばらつきも少なくなったが，前年に引き続き作業部分の活動を減らし看護補助など患者ケアに関わる部分の活動を重点的に行った。水曜ボランティアも６月には６名になったが，引き続き他曜日ボランティアの協力を得て通常活動を１年間継続することが出来た。

２）特技ボランティアの活動

美容，アロマセラピー，マッサージなどは従来通り行っているが休退会者が出てお休みの日が増えている。運転ボランティアは土曜日に１名が月１回関わるにとどまっており中井町のシルバー人材センターへの依存が高まっている。芝刈り，庭園整備などの外部環境整備に関わる活動は男性ボランティア３名が毎週火曜日に関わっており安定している。また2017年11月から新しい活動として始められた理学療法士の資格を持ったボランティアによる理学療法は毎週水曜日の午後行われ看護部の大きな助けになっている。

●ある日のティータイム風景

３）ボランティアの会の活動

曜日担当による任期１年の三役制度が続いているが，役員を引き受ける曜日の決定に毎年難渋している。2018年度は，総会１回，役員会７回を開催し会の運営に当たった。この１年の会の活動で特筆すべきものは，看護部の要請に応じて２月から有志により開始されたイブニングケア（以前に行われていたナイトケアに匹敵する17：00～19：00の時間外活動）と再開後初めて行われた他施設見学である。開設２年経とうとしているNPO法人マギーズ東京を訪ね秋山正子センター長から懇切丁寧な説明を受けた。

４）ボランティア活動資金収支

2018年度の収入は，前年度繰越金294万円，寄付金34万円，バザー６万円，ショップ売り上げ17万円であった。支出はティータイム食材費40万円，活動諸経費12万円，病院忘年会寄付10万円で，2018年度への繰越金は300万円となっている。

５）アドバンスト講座への参加

アドバンスト講座は昨年度３回開催した。テーマと参加人員は別表の通りである。

６）ピースハウスボランティア養成講座

2018年度春期ボランティア養成講座は５月16日～６月13日開催され７名が応募，受講し，６名がLPCボランティアとして登録された。秋期ボランティア養成講座は諸事情で開催を見送った。

7）高校生の夏期ボランティア体験実習指導

2018年度の高校生夏期ボランティア体験実習は，７月23日(月)から８月４日(土)まで12日間実施した。参加者は，麻布学園麻布高校から５名，神奈川県立秦野曽屋高校から４名の計９名であった。

8）アートプログラム

アートプログラムは，日曜，祝祭日，年末年始，ボランティアアドバンスト講座開催の日，財団のボランティア関連行事のある日を除き毎日，原則として午後１時半から３時に実施してきた。アートプログラムの内容は，押し花(月)，絵と書(火)，フラワーアレンジメント(水)，ちょこっと手作り(木)，歌う会(金)，折り紙(土)，いなご会《俳句・川柳》(月１回）であった。開催回数は282回，参加者は延べ1,315名（前年比92%），１回平均4.7名（前年比92%）であった。そのうち患者・家族の参加者は480名（前年比87%）１回平均1.7名（前年比89%）であった。患者，家族の参加者が激減を続けているのは，予後の短い患者が多く入院期間が短くなっていることが原因と思われる。アートプログラムは単調になりがちなホスピス生活に潤いをもたせ，介護者にもホッとした一時を過ごしてもらう目的があり，語らいの場でもあるので参加者の多寡にかかわらず定例的に常時開催しているが，内容についてはより多くの方々が参加しやすいようなプログラムを検討していく必要があると思われる。

9）ティータイムサービス

アートプログラム同様，ボランティア活動日には午後３時から４時にティーラウンジで欠かさず行ってきた。前後30分はその準備が必要であり，またティーラウンジに来られない患者・家族にはお部屋に伺って注文を伺いお持ちするので，再開時，ボランティアの人数減に鑑み菓子は市販品を提供するなど簡素化のもとで１年間継続してきた。再開２年目からは出来る曜日から手作り菓子の提供を復活することを決めたが，この１年を振り返ってみると休院以前の水準には戻っていない。

10）2019年度に向けて

2019年４月１日現在，ピースハウスボランティアの登録者数は67名（内男性10名）で，昨年４月１日対比で11%減少したがその構成内容は次の通りである。平均年齢は64.9歳（最高85歳，最低45歳），年齢構成は，80代４名，70代19名，60台28名，50代９名，40代７名となっている。県内在住者が63名（94%）となりその約78%が秦野，平塚，二宮，大磯，小田原など15km 以内に居住している。活動期間を見ると，５年以上のベテランが減って30%となり，５年未満の新人が増えて40%を占め世代交代が進みつつある。

2018年度のピースハウスボランティアの総活動時間は16,055時間，前年度との比較では＋67時間，ほぼ前年並みとなった。2018年度達成累積活動時間によるピースハウスボランティアの表彰対象者は14名（6,000時間１名，4,000時間２名，3,000時間５名，2,000時間３名，1,000時間２名，500時間１名）である。

報告／志村　靖雄（ピースハウスボランティアコーディネーター）

表　アドバンスト講座

開催日	内　　容	講　師	参加者（名）
４月20日(金)	・ピースハウスボランティアの会総会 ・気になる庭の木や花を知ろう！ ①庭の木や花の学習　②名札付け	近藤孫範・常盤欣二	29
７月３日(火)	・感染予防対策 ・痛みがある患者のベッド移動と車椅子介助技術 ・東日本大震災の体験 ・院内外パトロール・防災設備の確認 ・災害時に備えた初期救急対応―人工呼吸法，AED―	看護部　石黒恵美 災害派遣ナース　吉川　恵 救急エードナース　池田弥生	30
１月16日(水)	・感染予防対策 ・看護技術（医療備品の安全操作と安楽体位） ・理学療法士のボランティア活動 ・マッサージ師のボランティア活動 ・グループ討議「思いがけない質問等について」	看護部　石黒恵美 材木徳子 特技Ⅴ　木村義明 特技Ⅴ　池辺雅代	23

ピースハウスホスピス教育研究所

所在地：神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000－1

ホスピス教育研究所の主な活動は，1）ケアに従事する専門職・ボランティアを対象とする講座・セミナーの開催，2）ホスピス国際ワークショップの開催，3）ケアの実際を臨床の場で体験する研修生の受け入れ，4）各種研究会の開催，5）ホスピス・緩和ケアに関する一般への啓発・普及活動，6）グリーフケアに関する活動の支援，7）機関紙の発行，8）国内外のホスピス緩和ケア関係者との情報交換などである。また，「日本ホスピス緩和ケア協会」事務局としての業務も並行して行っている。

1　活動の全体像

1）講座・セミナーの開催

緩和ケアの基本を学ぶ緩和ケア講座では，がん患者の症状マネジメント，がんとともに生きる患者・家族への支援，看とりのケアなど，13のテーマについて，緩和ケアに従事する医師・看護師等による講義を行った。受講後のアンケートでは，「症状マネジメントや看護の実際について具体的に学ぶことができた」，「患者・家族を理解する視点が変わった」「ご遺族の話を直接聞くことができ家族ケアの重要性に気づき，関わり方の参考になった」などの意見が聞かれ，全体に高い評価を得た。

特定のテーマに焦点をあてるホスピスセミナーを２つ企画した。①「がん患者の不穏とうつをいかに理解し，支援していくか」では，臨床で遭遇することの多い精神症状について，年齢や認知機能を考慮した対応の重要性を学んだ。②「あなた自身のケアしていますか？―死にゆく人と共にあるために―」では，ケアを提供する自分自身へのケアの重要性とその具体的な方法を学ぶ場となった。

ボランティア対象としては，活動を目指す人のための養成講座と継続教育としてのアドバンスト講座を開催した。後者においては，ホスピス看護師の協力を得て，Vo. 活動に役立つ看護技術や感染予防対策など具体的な学びの機会を持った。ボランティアが実践の中で必要とする学びのテーマを自ら考え，看護師との共働により学習を進めるプログラムは，ボランティアの質を高めるとともに，学びの場からチームワークが育っていく過程としても貴重な機会となった。

2）ホスピス国際ワークショップの開催

第26回を迎えたホスピス国際ワークショップは，「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）Part Ⅱ 生命を脅かす病と共に生きる人との対話 ―実践を振返り，次のステップへ―」をテーマに，アメリカから２人の講師を招聘して開催した。

全国各地から緩和ケアを実践する医療者，教育研究関係者の参加があり，アメリカで開発されたSerious Illness Care Programの紹介を受け，日本での活用について考え，今後の実践に向けてロールプレー，グループディスカッション，講師との意見交換等を通して学びの機会を持った。

近年わが国でもACPの重要性が述べられ，そのため

●ボランティア体験実習後のわかちあい

●医師役のBernacki先生（米国／英語）と患者役の森先生（日本／日本語）のデモンストレーションを振り返る

の医療者と患者・家族とのコミュニケーションのあり方は重要な課題となっている。今回，国際ワークショップで取り上げたSerious Illness Care Programは，タイムリーなテーマであり，高い関心が向けられた。

ACP：今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス

3）研修生の受け入れ

毎年夏期に開催している高校生対象のプログラムとして3日間のボランティア体験を通してホスピスケアの実際を学ぶコースでは，2つの高校から実習生を受入れた。ボランティアと行動をともにしながら，ホスピスにおけるチームケアの一員として活動することを通して，生きることの意味，生と死について，また，医療のあり方などについても考える機会となったことが実習レポートから推察される。

今年度の新しい試みとして，緩和ケア講座の全テーマを受講した参加者を対象に，ホスピス緩和ケアの実践の場である日野原記念ピースハウス病院での3日間の見学実習の機会を提供した。限られた期間ではあったが，臨床現場での学びは深く，臨床研修の意義を再確認した。

4）研究会の開催

緩和ケア研究会高齢者ケア部会を3回開催した。今年度は，病院・ホスピス・在宅だけでなく高齢者施設における看取りの実際にも目を向け，高齢者施設の介護職の方に施設における看取りのケアの実際を紹介する機会を提供した。また，地域の基幹病院の相談員・ホスピススタッフ・訪問看護師・ケアマネジャー，施設職員などに参加を呼びかけ，意見交換の場を持つことで，それぞれの特性や課題を共有することができた。こうした顔の見える関係が，実際のケアの連携にもつながり，地域全体のケアの質の向上につながってきていると考える。

5）ホスピス緩和ケアの啓発・普及活動

ホスピス緩和ケアへの理解が深まり，ケアを必要とする人が適切に利用できるように，ホスピス病棟の見学と医師・看護師らとの質疑応答などを内容とするホスピス見学会を開催した。一般対象，また，医療福祉関係者対象，それぞれ企画し，対象の理解度や関心に合わせて進めた。また，地域の民生委員やボランティアグループなどからのホスピス見学申込にも積極的に対応した。

6）グリーフケアに関する活動の支援

遺族同士が互いに支援し合う「ピースハウス家族の会」は，1997年に発足し，活動22年目を迎え，約140名の会員の中から選出された役員が中心となって会を運営している。互いの経験を分ち合う会の開催，機関紙の発行などを支援し，また，会の運営に関するアドバイスなどを行った。大切な人を亡くした方々の悲しみを受けとめていく家族会の存在はホスピスケアの一つであるグリーフケアの充実に繋がっていると考える。

今年度の新たな取組みとして，ピースハウス病院の看護師・ボランティアと共同し，死別3～4ヵ月後，大切な人を亡くした家族が互いの経験を分ち合いながら悲嘆を理解し，回復していく過程を支援するプログラム「お茶の会―大切な人を偲んで―」を企画した。参加者は一回数名であるが，看取りの体験や死別後の思いを語り合うことの意義が確認され，今後も会の持ち方を工夫しながら継続していく。

7）機関紙の発行

ホスピスの活動状況の報告とともに，今回は，ホスピスにおけるさまざまな学びについて特集し，教育の意義や方法を紹介し，また，ホスピスケアの利用法や支援の方法も紹介した機関紙を発行した。一般病院・診療所・訪問看護ステーションなどに発送するとともに，一般の方にも広く配付することで，ホスピスケアの意義，ケアの実際を多くの人に周知していく。

8）アジア太平洋ホスピス緩和ケアネットワーク（Asia Pacific Hospice Palliative Care Network：APHN）

アジア太平洋地域で緩和ケアを実践する機関，また，ケアに従事する医療従事者等が会員となっているネットワーク（APHN）の活動に参加し，情報交換を進めている。

今年度は，ネットワーク会員が一同に会するカンファレンス開催年ではなく，直接話し合う場などはなかったが，関係国からのホスピス見学希望などは積極的に受け入れ，国際交流の機会を持つことができた。こうした草の根交流の積み重ねがネットワーク構築への足がかりにもなっていると考える。

2021年には，APHNの大会が日本で開催されることになっており，大会組織委員として会議に出席し，準備作業に参加，協力している。

2 活動の実際

1）講座・セミナーの開催

ホスピス緩和ケア講座	期　日	講　師（所属）	参加者数
〔第1部 がん患者のケア―症状マネジメントを学ぶ―〕 1）がんの痛みの理解とマネジメント 2）痛みのある患者の看護の実際	6月19日	岩﨑　誠　日野原記念ピースハウス病院 医師 石黒　恵美・高次　美香 日野原記念ピースハウス病院	41
1）消化器症状（嘔気・嘔吐）の理解とマネジメント 2）食によせる思いを受けとめ支援する	7月5日	岩﨑　誠　日野原記念ピースハウス病院 医師 平野　真澄・宇賀　玲実 日野原記念ピースハウス病院 栄養部	40
1）がん終末期のせん妄の理解とマネジメント 2）せん妄のある患者の看護の実際	7月24日	岩﨑　誠　日野原記念ピースハウス病院 医師 赤丸　智子・臼井　珠美 日野原記念ピースハウス病院 看護部	45
〔第2部 がんとともに生きる人々を支える〕 がんとともに生きる人々を支える ―診断期，治療期，そして病状が進行したとき 患者・家族が直面する課題とその支援―	9月10日	風間　郁子 筑波大学附属病院 緩和ケアセンター がん看護専門看護師	48
1）ホスピス緩和ケア ―過ぎたるはなお及ばざるがごとし― 2）ホスピスで過ごす患者と家族のケア 3）ホスピスでの日々―家族の立場から―	9月13日	西立野研二　日野原記念ピースハウス病院 院長 永田　浩子　日野原記念ピースハウス病院 看護部 佐藤　章子　ピースハウス家族の会　会長	44
〔第3部 看取りのケア〕 1）死亡前の兆候と苦痛の緩和 2）エンゼルケアの実際 3）ホスピス看護の物語り	9月26日	山崎　和子・内田真由美・小松　知子・桐ヶ谷政美 日野原記念ピースハウス病院　看護部	62
〔ホスピス緩和ケアの実際を学ぶ〕 ピースハウス病院におけるチームによるケアの実際を見学し，ホスピス緩和ケアを学ぶ 看護師実習，ボランティア実習，チームミーティング参加など	10月23日～25日 10月26日～11月8日 11月13日～15日	日野原記念ピースハウス病院 看護部・ボランティア	8

ホスピスセミナー	期　日	講　師（所属）	参加者数
がん患者の不穏と抑うつをいかに理解し，支援していくか―「年齢」と「認知機能」に焦点をあてて―	10月20日	星山　有宏 北里大学病院 麻酔科 緩和ケア・ペインクリニック部門 助教	37
あなた自身のケアしていますか？ ―死にゆく人と共にあるために―	11月24日	高宮　有介 昭和大学医学部 医学教育推進室 教授	42

ボランティア養成講座・ボランティアアドバンスト講座	期　日	回	講　師（所属）	参加者数
ボランティア養成講座	2018年 5月－6月	1	西立野研二　日野原記念ピースハウス病院　院長 他3名	11
ボランティアアドバンスト講座	2018年4月 －2019年1月	3	近藤　孫範　園芸ボランティア 材木　徳子　日野原記念ピースハウス病院看護部 他8名	延82

2）ホスピス国際ワークショップの開催

期　　日：2019年２月16日（土）・17日（日）

開催場所：ピースハウスホスピス教育研究所

テ ー マ：アドバンス・ケア・プランニング Part Ⅱ
生命を脅かす病とともに生きる人との対話
―実践を振り返り，次のステップへ―

講　　師：

① Dr. Rachelle Bernacki
Dana-Farber Cancer Institute, USA

② Dr. Elise C. Carey
Mayo Clinic, USA

ファシリテーター：

①木澤 義之
神戸大学医学部附属病院 先端緩和医療学 特命教授

②森　雅紀
聖隷三方原病院 緩和ケアチーム 医師

内　　容：

１）Serious Illness Care Program
―重篤な疾患を持つ患者さんのケアのプログラム―
・プログラムについて
・実演とデブリーフィング
・Serious Illness Conversation Guide を用いたスモールグループでの練習

２）実装し，スキルを高める
・実装：アイデアから行動計画へ
・コンフリクトに対処する
・感情に対応する
・アクションプランのワークショップ

参加者数：86名

3）研修生の受け入れ

①ホスピス体験実習（計９名）
期　日：2018年７月－８月（３日間×４回）
麻布学園麻布高校（５名）・神奈川県立秦野曽屋高校（４名）

②ホスピス緩和ケア講座受講者（計８名）
期　日：2018年10月－11月（３日間×３回）

4）研究会の開催

地域緩和ケア研究会 高齢者ケア部会

期　日：2018年６月13日・10月10日・2019年２月20日
計３回

テーマと発表者：

①事例検討：療養場所に関する意思決定支援について考える
山本　典子　訪問看護ステーション中井 看護師

②これからの看取りのあり方とケアのネットワーク
―施設における看取りから考える―
佐野　春樹，他　社会福祉法人一燈会メゾン二宮

③「最期まで自分らしく過ごしたい」を支援する
―病院・ホスピス・在宅・高齢者施設等，それぞれの特性と連携―
名渕　貴志　ザ・中井プライム　管理者，他

延べ参加者数：73名

5）一般への啓発・普及活動

①オープンハウス（病院見学会）
開　催：2018年５月10日・６月７日・８月23日　計３回
対　象：ホスピス緩和ケアに関心を持つ一般の方，医療福祉専門職
延参加者数：45名

②ピースハウス見学への対応　16件　178名
主な団体
中井町食生活改善推進協議会，平塚市金目地区社会福祉協議会，厚木市南毛利南地区地域福祉推進委員会，韓国 釜山カトリック大学，中国 医療介護運営グループ，英国緩和ケア視察団，他

6）グリーフケア―遺族のための分かち合いの会―

①お茶の会（病院主催）
開　催：2018年４月・５月・６月・７月・９月・11月・１月・３月（計８回）
延参加者数：遺族（含む家族の会会員）35名，看護師 15名，ボランティア16名，相談員 ７名

②「家族の会」会員の小さな集まり“ぶらっとスポット”
期　日：2018年９月20日，2019年３月11日（計２回）
延参加者数：23名

7）図書・文献整備と研究所会員制度

● 定期購読雑誌：洋雑誌４誌，和雑誌６誌
● 教育研究所 会員数20名（医師７，看護師５，理学療法士１，ソーシャルワーカー１，ケアマネジャー１，心理士１，看護教員１，医療クラーク１，他２）

8）機関誌発行

「ホスピス活動報告」“ピースハウスふれんず”第24号（2,000部 2019年３月発行）

3 学会等参加活動

1）学会発表

- 岩﨑誠：ホスピスに入院した泌尿器科がん患者の検討，日本泌尿器科学会（2018.4.19-22　京都市）
- 岩﨑誠：当院におけるオピオイド使用量と予後との関係，日本緩和医療学会（2018.6.15-17　神戸市）
- 岩﨑誠：独立型ホスピスにおける転落転倒レポートの分析，日本緩和医療学会（2018.6.15-17　神戸市）
- 高次美香：症例報告　ホスピス入院の選択から看取りへのプロセス―家族・スタッフ，それぞれの葛藤を乗り越えて―，日本死の臨床研究会（2018.12.8-9　新潟市）

2）学会参加

- 日本泌尿器科学会（2018.4.19-22　京都市）：岩﨑誠
- 日本創傷・オストミー・失禁管理学会　学術集会（2018.5.19-20　札幌市）：西宮法子
- 日本緩和医療学会　学術大会（2018.6.15-17　神戸市）：岩﨑誠，吉田博史，山崎和子，材木徳子，坂本恵
- 日本臨床薬理学会　学術総会（2018.7.2-3　京都市）：稲垣友雅
- 日本在宅ケア学会　学術集会（2018.7.14-15　大阪市）：山本典子
- 日本看護管理学会　学術集会（2018.8.24-25　神戸市）：桐ケ谷政美
- 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会　学術大会（2018.9.8-9　仙台市）：宮本始緒
- 日本サイコオンコロジー学会（2018.9.21-22　金沢市）：内田真由美
- 日本臨床死生学会　年次大会（2018.10.13-14　千葉市）：小松知子
- 日本死の臨床研究会　年次大会（2018.12.8-9　新潟市）：平野真澄，宇賀玲実，永田浩子，高次美香

3）研修参加

- 日本ホスピス緩和ケア協会　年次大会（2018.7.14-15　江東区）：岩﨑誠，吉田博史，桐ケ谷政美，永田浩子，臼井珠美
- 病院ボランティアコーディネーター研修会（2018.9.8　倉敷市）：志村靖雄
- アンガーマネジメントセミナー（2018.10　東京都）：臼井珠美
- ELNEC-J コアカリキュラム（2018.10.19-20　横浜市）：伊藤由美，洞亜由美

4 「日本ホスピス緩和ケア協会」事務局として

協会の正会員は，2019年３月現在，緩和ケア病棟365施設，緩和ケアチーム40施設（他に緩和ケア病棟として登録しているチーム84施設），一般病院22施設，診療所等60施設から構成されている。事業としては，①ホスピス緩和ケアの啓発・普及活動，②ケア従事者への教育，③ケアの質の確保と向上に関する調査，研究，④ケアに関する情報提供，情報交換，⑤国内外の関連団体との連絡，連携の５分野となっている。啓発普及活動としては，世界ホスピス緩和ケアデーに合わせた「ホスピス緩和ケア週間」への取組み，教育支援事業としては，看護師・ソーシャルワーカー・緩和ケア病棟管理者を対象とした教育プログラムなどを開催している。その他，会員施設の施設概要や利用状況調査，年次大会の開催，支部活動の推進，ニューズレターの発行，日本緩和医療学会との意見交換会の開催，また，厚生労働省への緩和ケアに関する提言などを行っている。

近年，緩和ケアを提供する施設の量的な広がりと共に，ケアの質の維持・向上がますます重要な課題となっており，2018年度は，教育プログラムの充実，また，各施設におけるケアの質の向上に取り組む姿勢を評価する認証審査など，ケアの質向上を目指した活動が重点事業となり，多岐にわたる協会の業務を事務局として推進した。

報告／松島たつ子（ピースハウスホスピス教育研究所所長）

訪問看護ステーション中井

所在地：神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000－１

2018年４月で，20周年を迎えた。2018年度はスタッフの入れ替わりなく，常勤看護師３名，非常勤看護師４名，非常勤事務員１名のチームメンバーで訪問看護業務，居宅介護支援業務，そして地域連携活動・啓蒙活動もあわせて行った。

訪問看護ステーションと言っても様々な特色を打ち出しながらそれぞれの事業所が生き残りをかける中，看護職のみの事業所として地域に根差す活動を行ってきた。以下に2018年度の統計及び活動について報告する。

1　訪問看護について

１）利用者像

⑴　全体像

2018年度の実利用者85名（昨年比＋１名），男性47％，女性53％の比率で，年齢は40歳代から90歳代までで，中央値は82.0歳（昨年比＋１歳）であった。利用者のADL（日常生活動作）や介護量を示す介護度の平均は，要介護３と昨年と変わりはない。以前は利用者の家族構成は地域柄か２世帯，３世帯家族が多かったが，ここ最近の利用者の家族構成は独居もしくは高齢者世帯が目立つようになり，その割合は49％にのぼっている。

主疾患については悪性新生物が26％，うち末期の方は全体の14％だった。その他脳神経系疾患，循環器系疾患，筋骨格系及び結合組織の疾患と続いた。訪問看護の実利用者の保険割合は，24％が医療保険，76％が介護保険であり，訪問回数では29％が医療保険，71％が介護保険となっている。主治医について，病院が40％，開業医が60％，うち在宅療養支援診療所は56％だった。利用者の訪問看護利用月（85名の利用者が１年間のうち何か月訪問看護を利用したか）の中央値は全体で9.0か月，介護保険利用者は11か月，がんターミナルは2.4か月だった。

⑵　新規利用者像と訪問看護終了利用者像

今年度の新規利用者は37名（昨年比＋４名），終了者は36名（昨年比－７名）だった。新規利用者は41％ががんの方で，その７割ががん末期と診断された方だった。

訪問看護終了理由では病院へ入院された方は48％，その３割が日野原記念ピースハウス病院へ入院された。その他自宅で死亡された方は38％，その他の理由（施設入所等）で終了された方は13％だった。自宅でお亡くなりになった11名のうち，がん末期の方は５名，非がんの方が６名だった。終了者の疾患はがんの方は45％，非がんが55％であった。

２）ケア内容

訪問看護内容は多岐にわたっているが，特にご本人への精神的支援，清潔・排泄ケア，服薬の管理・指導，ご家族への支援が多くなっている。また訪問中や事務所にもどってからの主治医やケアマネジャーなど他機関との連絡調整は利用者・家族が，安心・安全に過ごすために必要不可欠であり，医療者としての専門的見地から予測的な視点も含めた連携が大切である。

３）振り返り

今期は昨期と比べると，実利用者数・延べ利用者数はほぼ変わらないが，訪問件数は180件ほど増えており，一人当たりの訪問件数が増えたと言える。昨年同様点滴や状態悪化のために一時的に訪問を増やすケースがさらに増えたことによるものであり，月によっては１日２回訪問の利用者が複数名いらっしゃったことが大きな要因である。

更に後半になり，利用者をとにかく断らないことを目標に受けていったこともあり，利用者数が増え，訪問枠も埋まりつつあるが，その中でも更に利用者を確保し，どうやって訪問件数を増やすかが次年度の課題である。

2　居宅介護支援について

１）利用者像

⑴　全体像

2018年度の実利用者57名（昨年比＋５名），40歳代から90歳代までで，中央値は80歳（昨年比±０歳）だった。全体の利用者の疾患はがんの方が33％で，そのうち６割ががんターミナルの方だった。次いで循環器系疾患，脳神経系疾患，筋骨格系及び結合組織の疾患が並ぶ。利用者の介護度の平均は，要介護２で，訪問看護の利用者より若干介護度が低い利用者像となっている。利用者の居宅介護支援利用月（57名の利用者が１年間で何か月支援を受けたか）の中央値は10か月（昨年比＋２か月）だった。利用者の家族構成は独居もしくは高齢者世帯が47％だった。また利

用者の中で訪問看護を利用している方は，86％だった。

⑵　新規利用者像と終了利用者像

新規利用者25名（昨年比＋９名），終了者18名（昨年比－２名）であり，新規利用者の６割，終了者の７割ががんの方だった。終了者の理由として入院された方は55％，その３割が日野原記念ピースハウス病院へ入院された。自宅でお亡くなりになった方が33％だった。また新規・終了者の居宅介護支援利用月の中央値はともに３か月だった。

２）振り返り

今期利用者は微増であったが，訪問看護の利用者像とは異なる利用者像がみえてくる。訪問看護ではがんと診断され，治療中からかかわるケースが多くなってきたが，居宅介護支援部門が関わるのは，介護が必要になってであるため，がんの末期の割合が増えている。そのため，新規利用者・終了者の利用期間は３か月と，全体の利用者と比べると極端に短くなる。その中で必要な支援を状態の変化に合わせて適切に行っていくことが，必要不可欠であり，それは病気に知識を持っている看護師ならではの資格を生かした支援なのだと考える。

事業所がある中井町周辺の居宅介護支援事業所とケアマネは，行政や包括支援センターに話を聞いても，数が足りていないと言う。それと同時に要介護者等の住民は，軽度の方が多いことわかっているが，その方全員が訪問看護を希望するかというと，こちらが「必要」と思っても，そうでないことが現実である。これまで，訪問看護と兼務をしながら業務に当たるうえで，訪問看護を利用する方に限って依頼を受けてきたが，そういった地域現状の中で，利用者をどうやって増やしていくかが課題である。

3　研修・地域貢献活動等の実績

１）研修参加

⑴　研修受け入れ

- 神奈川県看護協会訪問看護見学体験研修　見学実習

⑵　研修・学会参加，事例発表

- 中井町地域ケア会議に事例発表（鈴木雪枝）
- 二宮町地域ケア会議に事例発表（田中美江子）
- 日本緩和医療学会，日本在宅ケア学会学術集会，日本在宅医療学会学術集会，足柄上医師会研修会，中郡在宅医療・介護連携支援センター研修，中井町地域ケア会議などにスタッフが参加

２）地域貢献活動

高齢者ケア部会（名称「よろしくネット」）の執行部事業所として，地域のサービス事業所にご協力いただきながら，ホスピス教育研究所とともに部会の企画運営をし，地域の顔の見える関係づくりに力を注いだ。身近な話題をテーマにすることを目標に，「療養場所に関する意思決定支援について考える」「施設における看取りの実際から考える」「療養場所の選択について考える「最期まで自分らしく過ごしたい」を支援する」というテーマで，地域の現場の方に実際の意思決定支援や看取りの支援についての話をいただき，地域の現状を知り，支援に生かすことができた。

３）内部研修活動　月１勉強会

昨年度と同様，管理者が主導して月１回の勉強会を開催し，マニュアルの作成・見直し，事業所としての意識向上につなげることができた。来期もさまざまな視点からテーマを決め，取り組んで行きたい。

4　次年度への展望

2021年度から居宅介護支援の管理者については，主任介護支援専門員としなければならないこととなったため，当該事業所はそれに先駆け，2019年度より主任介護支援専門員を採用した。これにより，訪問看護を利用しない，軽度者の居宅介護支援利用者を受け入れることとした。

これまでは訪問するスタッフは，看護師資格を持ったスタッフのみだったが，主任介護支援専門員という福祉系の資格を持ったスタッフの視点が入ることとなり，事業所の幅はさらに広がると思われる。また４月に入り数日ではあるが，居宅介護支援単独の利用者も増えてきているので，事業所としてどう変革していくかは今期の課題である。10年後も継続していられる組織でいられるよう，業務改革，意識改革をしながら30周年を迎えたいと思う。

報告／田中美江子（訪問看護ステーション中井所長）

会　　員

1　健康教育サービスセンター会員

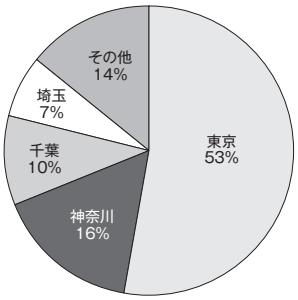
日本における健康教育はすでに成熟期に達し新しい段階を迎えている。今後は最新のテクノロジーなどとともにひとり一人の実践が求められている。

財団の活動も大きな転換期を迎えている。

本年はそれらの動きを踏まえ，既存の会員制度を見直し新制度へ移行していただくための準備段階となった。

会員構成（会員数）

会　員	男	女	合計
一　般	28	121	149
専門職	3	41	44
	31	162	193

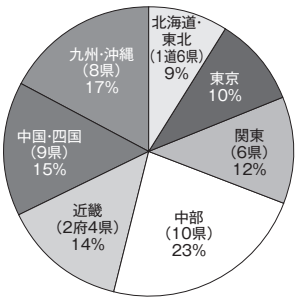


会員の地域別分布

2　「新老人の会」会員

「新老人の会」は，2019年９月末をもって財団による運営を終了する。

それにともない2018年10月より，各会員の更新月に会員継続を終了し，各地域への移行手続きを行っている。９月末現在の支部と会員数を下記に示した。



会員の地域分布

地　　域	会員数
北海道･東北（１道６県）	163
東京	184
関東（６県）	222
中部（10県）	432
近畿（２府４県）	265
中国・四国（９県）	274
九州・沖縄（８県）	308
その他	3
合　　計	1,851

支部・本部の会員数と平均年齢

（設立順・2018年９月30日時点）

No.	支部名	男性	女性	全体	会員数
1	福岡支部	75.56	74.75	75.10	210
2	広島支部	77.81	75.50	76.42	140
3	兵庫支部	81.51	78.78	79.93	169
4	京都支部	77.72	78.39	78.08	102
5	大阪支部	74.38	74.47	74.43	150
6	東海支部	78.55	76.45	77.23	121
7	信州支部	72.89	72.68	72.77	113
8	宮城支部	76.86	74.33	75.34	91
9	山梨支部	78.02	76.62	77.29	88
10	高知支部	63.38	64.81	64.16	170
11	鳥取支部	61.29	64.21	62.81	109
12	新潟支部	74.62	70.21	72.07	135
13	熊本支部	74.98	76.94	76.16	240
14	静岡支部	79.24	78.72	78.91	115
15	宮崎支部	76.08	75.82	75.91	36
16	鹿児島支部	74.04	74.86	74.50	108
17	富山支部	76.60	73.29	74.84	32
18	岡山支部	78.32	78.08	78.17	123
19	三重支部	80.35	77.14	78.38	158
20	はりま支部	77.60	75.32	76.15	125
21	神奈川支部	80.62	78.18	79.14	272
22	青森支部	80.33	75.67	77.94	92
23	群馬支部	76.18	74.16	74.90	30
24	石川支部	80.40	76.95	78.35	106
25	沖縄支部	78.57	76.00	77.17	101
26	和歌山支部	77.24	76.65	76.86	140
27	千葉支部	77.88	75.72	76.60	181
28	長崎支部	74.22	72.85	73.55	54
29	大分支部	76.07	73.48	74.51	112
30	愛媛支部	75.24	72.69	73.74	63
31	山形支部	76.71	73.90	75.42	92
32	徳島支部	69.59	69.43	69.49	105
33	佐賀支部	67.44	74.10	71.22	39
34	香川支部	74.27	68.86	71.24	25
35	富士山支部	75.87	70.83	73.02	149
36	滋賀支部	76.07	75.77	75.90	102
37	長野支部	73.59	70.94	72.04	55
38	栃木支部	78.08	77.07	77.55	111
39	岩手支部	76.05	70.83	73.58	39
40	福井支部	77.67	75.55	76.70	105
41	奈良支部	75.83	70.00	72.50	70
42	多摩ブランチ	77.85	75.43	76.32	142
43	本　　部	77.30	76.19	76.59	898
合　　計		76.24	74.98	75.50	5,636

なお，2019年３月末の会員数は1,851名となった。

役員・評議員

2019年４月１日現在（五十音順）

理事長	道場信孝	非常勤	
常務理事	朝子芳松	非常勤	
理事	石清水由紀子	常勤	「新老人の会」事務局長
同	久代登志男	常勤	日野原記念クリニック所長
同	熊谷三樹雄	常勤	ライフ・プランニング・センター事務局長
同	佐藤淳子	常勤	日野原記念クリニック副所長
同	平野真澄	常勤	健康教育サービスセンター所長
同	福井みどり	常勤	健康教育サービスセンター副所長
同	松島たつ子	常勤	ピースハウス・ホスピス教育研究所所長
同	西立野研二	常勤	日野原記念ピースハウス病院長
監事	角田敏彦	非常勤	株式会社フォレサンテ取締役
同	菅原悟志	非常勤	ブルーシー・アンド・グリーンランド財団　理事長
評議員	岩﨑榮	非常勤	特定非営利活動法人卒後臨床研修評価機構専務理事
同	紀伊國献三	非常勤	公益財団法人笹川記念保健協力財団最高顧問
同	行天良雄	非常勤	医事評論家
同	高橋元一郎	非常勤	元日本大学医学部客員教授
同	増田幹生	非常勤	東京都北区医師会　会長

財 団 報 告

ライフ・プランニング・センター本部　2019年３月31日現在

1　理事会・評議員会報告

［理事会報告］

１）第15回理事会（平成30年６月15日開催）

● 第１号議案　平成29年度事業報告承認の件

「平成29年度事業報告書」に基づき，各部門長より各部門の活動の説明がなされ，承認された。

● 第２号議案　平成29年度計算書類及び財産目録承認の件

「平成29年度決算報告書」に基づき，当財団全体の当期収支差額が＋9,244千円（前年度比－17,385千円）であること，貸借対照表の期末時点の資産合計額1,156百万円（前年度期末比＋193百万円），負債合計額272百万円（同＋65百万円），及び一般正味財産期末残高が884百万円（同＋128百万円）であること等の説明がなされ，承認された。

● 第３号議案　内閣府宛公益目的支出計画実施報告書等の承認の件

内閣府宛公益目的支出計画実施報告書等の内容の説明がなされ，承認された。

● 第４号議案　平成30年度収支予算の修正承認の件

日本財団の助成金額が申請額と異なる金額で承認されたことによる収支予算の修正が承認された。

● 第５号議案　日本財団に対する平成29年度助成金追加交付申請承認の件

第14回理事会で未確定案件として紹介された日本財団の平成29年度助成金が確定したことにより申請承認の手続きが必要であるとの説明がなされ，承認された。

● 第６号議案　育児休業規程改定の承認の件

法律の改正に伴う育児休業規程の改定が必要であるとの説明がなされ，承認された。

● 第７号議案　運営会議規定制定の承認の件

新たに運営会議規定を制定したいとの説明がなされ，承認された。

２）第16回理事会（平成30年10月22日開催）

● 第１号議案　日本財団に対する平成30年度助成金追加交付申請の件

日本財団に対する平成30年度の助成金として，「日野原記念クリニック医療機器等整備事業」4,750万円を追加申請したいとの説明がなされ，承認された。

● 第２号議案　日本財団に対する平成31年度助成金交付申請の件

日本財団に対する平成31年の助成金として，①「健康増進に関する環境整備事業2,894万円，②「ホスピス緩和ケアの研究と人材の育成事業」960万円，③「日野原記念クリニック医療機器等整備事業」9,591万円，④「医療福祉および医学教育にかかわるボランティアの育成と活動支援事業」264万円を申請したいとの説明がなされ，承認された。

● 第３号議案　「新老人の会」事業の件

「新老人の会」は，発足当初の目的は達成されたと考えられることと今後は各地方支部が独自に地域に根ざした活動を展開し，「新老人の会」の理念を広めることが最善と判断されたこと等の理由から，来年10月末日をもって当財団での同事業を終了したいとの説明がなされ，承認された。

● 第４号議案　評議員会開催の件

次回評議員会は，平成31年３月18日（月）午後３時30分より東京都港区三田の笹川記念会館４階会議室で，2019年度事業計画の件などを議題として開催したいとの説明がなされ，承認された。

３）第17回理事会（平成31年３月11日開催）

● 第１号議案　平成30年（2018年）度収支予算再修正の件

日本財団の追加助成金額（3,750万円）が確定したため，平成30年（2018年）度収支予算を修正したいとの説明がなされ，承認された。

● 第２号議案　2019年度事業計画書の件

2019年度事業計画の説明がなされ，承認された。

● 第３号議案　2019年度収支予算書の件

2019年度収支予算の説明がなされ，承認された。

● 第４号議案　LPC 運営会議規程改定の件

LPC 運営会議規程の内容を一部改定したいとの説明がなされ，承認された。

● 第５号議案　評議員会開催の件

次回評議員会は，2019年６月24日（月）午後３時30分より東京都港区三田の笹川記念会館４階会議室で，2018年度の計算書類等の件などを議題として開催したいとの説明がなされ，承認された。

［評議員会報告］

4）第15回評議員会（平成30年６月15日開催）

●第１号議案　平成29年度計算書類及び財産目録承認の件

平成29年度決算報告書」に基づき，当財団全体の当期収支差額が＋9,244千円（前年度比－17,385千円）であること，貸借対照表の期末時点の資産合計額1,156百万円（前年度期末比＋193百万円），負債合計額272百万円（同＋65百万円），及び一般正味財産期末残高が884百万円（同＋128百万円）であること等の説明がなされ，承認された。

●第２号議案　平成30年度収支予算の修正承認の件

日本財団の助成金額が申請額と異なる金額で承認されたことによる収支予算の修正が承認された。

●第３号議案　内閣府あて公益目的支出計画実施報告書等の承認の件

内閣府宛公益目的支出計画実施報告書等の内容の説明がなされ，承認された。

5）第16回評議員会（平成31年３月18日）

●第１号議案　平成30年（2018年）度収支予算再修正の件

日本財団の追加助成金額（3,750万円）が確定したため，平成30年（2018年）度収支予算を修正したいとの説明がなされ，承認された。

●第２号議案　2019年度事業計画書の件

2019年度事業計画の説明がなされ，承認された。

●第３号議案　2019年度収支予算書の件

2019年度収支予算の説明がなされ，承認された。

2　寄　附

本年度も財団各部門の運営支援のために多くの誇示，団体からのご支援をいただきました。

	金　額
本部・公益部門	60,390,358円
日野原記念クリニック	50,000円
日野原記念ピースハウス病院	9,542,927円
「新老人の会」	141,600円
合　　計	70,124,885円

3　ピースハウス友の会

「ピースハウス友の会」は独立型ホスピス「ピースハウス病院」の運営を支援していただくために設立された組織で，会員の方々から年１回会費の形で寄付を継続していただいている。2018年度は日野原記念ピースハウス病院として再開して３年目であるが前年比，金額で100％，件数で６％減となった。2018年度は89件，1,640千円のご支援をいただいた。内訳はさくら会員（１万円）66件，ばら会員（３万円）16件，はなみずき会員（５万円）４件，かとれあ会員（10万円以上）３件の計89件となっている。

報告／熊谷三樹雄（財団事務局長）

4　ボランティアグループの活動

2018年度のLPCのボランティア活動は，血圧測定ボランティアと新老人サポートボランティアが当初の目的を達したとして活動を終了し，健康教育サービスセンターに属するオフィスボランティア，模擬患者ボランティア，日野原記念クリニックを活動拠点とするクリニックボランティア，それに日野原記念ピースハウス病院（ホスピス）を活動拠点とするピースハウスボランティアの４部門に分かれて展開された。財団のボランティア活動は様々な分野にわたって展開されているため日常的には部門間のボランティアの交流が限られているため，財団の理念を共有する目的で幾つかの行事が定例的に行われてきたが，今年度LPCボランティアクリスマス会は見送られた。

1）ボランティア登録者数（2019年４月１日現在）

総数137名（女性114名，男性23名）

内訳

●三田クリニックボランティア	13名
●健康教育サービスセンター	
オフィスボランティア	15名
模擬患者ボランティア	42名
●ピースハウスボランティア	67名

＊複数部門で活動しているボランティアがいるため合計と一致しない。

ボランティア総数は前年より８名減少した。これはピースハウスボランティアが５名減少したのが主な理由である。

2）年間活動時間（2018年４月１日～2019年３月31日）

総計　23,749時間（前年比　＋421）

内訳

●日野原記念クリニックボランティア
2,737時間（＋18）

●健康教育サービスセンター
オフィスボランティア　507時間（－176）
模擬患者ボランティア　4,450時間（＋523）

●日野原記念ピースハウスボランティア
16,055時間（＋67）

前年度と比較して全体で421時間増加した。ピースハウスボランティアと日野原記念クリニックボランティアはほぼ横ばい。模擬患者ボランティアは約13％増加，オフィスボランティアは約26％減少した。模擬患者の延べ活動参加人員は570名に達し，東京医科大学をはじめ多くの派遣先から要請が増加している。オフィスボランティアは「新老人の会」の主体が財団を離れたことを中心に，機関誌，資料などの発送業務が減少した関係で仕事量が減少している。

ボランティアの活動時間は自己申告に基づいて記録集計され，初回は500時間，以降1,000時間刻みで一定時間に達した者に財団から感謝状と記念品が贈られている。

3）2018年度の主な活動記録

2018年

４月23日　第１回 LPC ボランティア連絡会議
４月１日付で財団事務局長が朝子芳松氏から熊谷三樹雄氏に交代した旨報告があった。各部門の新連絡員の顔合わせと年間活動行事に関する活動計画を協議した。

６月30日　LPC 設立記念の集い「日野原重明先生記念会」
聖路加国際大学「日野原ホール」
LPC ボランティアは無料招待

７月11日　LPC ボランティアニュース No.29発行

９月27日　第２回 LPC ボランティア連絡会議
各部門ボランティア担当職員による業務報告と行事予定の説明。連絡員による各部門活動報告。10月以降新老人の会は財団を離れて任意団体として43支部が独立して活動を継続していく旨報告があった。また本年は恒例の LPC ボランティアクリスマス会は開催しないことを決定した。

2019年

３月６日　LPC ボランティア研修会・連絡会
健康教育センターの進興ビル会議室において前年同様連絡会議と研修会を合同開催し37名が参加した。会は最初に道場理事長挨拶のあと，「ヘルスボランティアのための健康講座」と題して道場理事長の講演が行われた。後半は「LPC の会員制度の変更とボランティアの活動」と題して健康教育サービスセンター平野所長と志村ボランティアコーディネーターの説明があった。健康教育サービスセンターの会員制度を解消し2019年度から「日野原記念友の会」を発足させる予定であり，広く入会を呼びかける。続いて各部署のボランティア活動の「現状とこれからについて」と題して LPC 各部門のボランティア代表（日野原記念クリニック：中嶋久喜子さん，健康教育サービスセンター：光田美津子さん，端千枝さん，日野原記念ピーハウス病院：袴田明典さん，模擬患者：森口明男さん，石原恵子さん）から活動報告が行われた。

4）ボランティア表彰式

日　時　2018年６月30日（土）　12：15～12：45
会　場　聖路加国際大学日野原記念ホール

内　容

①　2018年度表彰者は26名であった。表彰式では道場理事長から一人一人に感謝状と記念品が手渡され，受賞者を代表して森口明男さんからお礼の挨拶を受けた。

②　表彰時間数と人数は，500時５名，1,000時間７名，2,000時間２名，3,000時間５名，4,000時間３名，5,000時間１名，6,000時間２名，7,000時間１名の合計26名で，部門別では健康教育サービスセンター５名，三田クリニック１名，ピースハウス20名であった。うち男性表彰者は７名であった。

③　出席者は表彰対象者26名中11名であった。

報告／志村　靖雄（ボランティアコーディネーター）

一般財団法人ライフ・プランニング・センター
年報 2018年度（平成30年度 2018.4－2019.3）事業報告書・№8（通巻46）

一般財団法人 ライフ・プランニング・センター
理事長　道場　信孝

〒108－0073　東京都港区三田３－12－12
笹川記念会館11階
電話（03）3454－5068㈹　FAX（03）3455－1035
URL:http://www.lpc.or.jp

2019年６月発行　㈱イーフォー

一般財団法人 ライフ・プランニング・センター

〒108-0073　東京都港区三田3－12－12 笹川記念会館11階
電話（03）3454－5068（代）　FAX（03）3455－1035

■日野原記念クリニック（聖路加国際病院連携施設）
〒108-0073　東京都港区三田3－12－12 笹川記念会館11階　（03）3454－5068　FAX（03）3455－1035

■健康教育サービスセンター
〒102-0082　東京都千代田区一番町29－2 一番町進興ビル１階　（03）3265－1907　FAX（03）6745－3391

■「新老人の会」事業部
〒102-0082　東京都千代田区一番町29－2 一番町進興ビル１階　（03）3265－1907　FAX（03）3265－1909

■臨床心理・ファミリー相談室
〒102-0082　東京都千代田区一番町29－2 一番町進興ビル１階　（03）3265－1907　FAX（03）3265－1909

■日野原記念ピースハウス病院（ホスピス）
〒259-0151　神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000－1　（0465）81－8900　FAX（0465）81－5525

■ピースハウスホスピス教育研究所
〒259-0151　神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000－1　（0465）81－8904　FAX（0465）81－5521
日本ホスピス緩和ケア協会事務局　（0465）80－1381　FAX（0465）80－1382

■訪問看護ステーション中井
〒259-0151　神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000－1　（0465）80－3980　FAX（0465）80－3979